

2-3. 普天間飛行場の跡地内の地権者及び跡地周辺の市民への取組み

取組み方針①：市民、学生、地権者、若手の会に対して普天間飛行場跡地利用について学習する機会を提供し、まちづくり人材育成に繋げるためにまちづくり講座を実施する。

取組み方針②：先進地のまちづくり事例を習得し、知見の共有を図る。

取組み方針③：跡地利用に関する情報や行政の取組みについて周知を図るため、多くの全世代を対象としたパネル展を開催する。

取組み方針④：市民に対し、跡地利用への興味・関心を高めるため情報発信を行う。

(1) 地権者・市民への合意形成・情報発信に関する取組みの企画・開催 (まちづくり講座の開催)

1) 開催概要

①目的

市民、学生、地権者、若手の会に対して、普天間飛行場跡地利用に関する学習の機会を提供するとともに、跡地利用に対する関心を高め、合意形成活動への積極的参加を促すことを目的とする。

②テーマ

令和2～5年度の共通テーマ：

周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ

- 今回の講座では、普天間飛行場の跡地利用全体を対象に検討するのではなく、現段階における普天間飛行場を見据えたまちづくりのスタートとして、「周辺市街地における身近な地域まちづくり」を対象とする。
- 普天間飛行場跡地利用の実現に向けて、跡地利用で目指す取組みを“今から”周辺市街地で実証・実践し、返還後の跡地における実現に向けた課題を明らかにしていくと共に、周辺市街地で跡地利用を見据えた新しいまちづくりの文化醸成を図る。
- 「跡地利用で目指す取組み」
 - ✓ みどりの中のまちづくり⇒公有地・民有地一体的な活用
⇒公共空間（公園・道路・広場等）の利活用
 - ✓ 周辺市街地整備との連携
- さらに、まちづくり全般にあたって地権者、市民および学生が、普天間飛行場跡地利用の将来像を考えるきっかけづくりとする。

③実施内容

沖縄国際大学と宜野湾市が連携し、沖縄国際大学の2年生の演習授業とコラボして、普天間飛行場の跡地利用を見据え、周辺市街地における身近なまちづくりを考えることをテーマに、2か月にわたりグループ毎に地域の関係者へのインタビューを行いつつま

ちづくりの企画を考える。

企画提案発表会では、普天間飛行場跡地の未来のまちづくりに向けて、各グループが考えたまちづくりの企画提案を発表する。

④狙い

～未来志向型のまちづくりの取組企画づくり（グループ単位での企画提案）～

■宜野湾市

- まちづくりの人材育成
- 普天間飛行場跡地利用への関心を高める
- 継続してまちづくりに興味を持って欲しい

■学生

- まちづくりについて知ってもらう
- 地域住民等との交流（外部へのインタビュー等の経験取得）
- グループでのプロジェクト企画作成のプロセスを学ぶ

⑤演習授業

- 学科は地域行政学科で演習の目的は専門に入る前の導入と基礎技術（調査・フィールドワーク・発表等）の習得
- 対象クラス：2年生（2クラス[15人×2クラス=30人]）
 - ✓ 柴田先生（学科長）：行政法
 - ✓ 野添先生：外交史
- 基礎演習Ⅱ：火曜4限（14:40～16:10）
- 上江洲先生はオブザーバー参加
- 1コマ90分（連絡等を除くと実質60～70分）
- 市職員や外部講師の参加は10/17のガイダンスと12/7の発表時とし、その間の授業は学生主体で演習を進める。

⑥グループ分けと発表テーマ等

	テーマ	企画内容	具体例	人数
1	にぎわいのある集約型のまちづくり	•既存の広場を利用して季節ごとのイベントを開催	•タームリンピック •宜野湾ぼいね写真コンテスト •宜野湾かるたイベント	8名
2	安心安全で健康に暮らせる都市づくり	•地域の防犯性を高めることを目的とした地域住民参加型のイベント開催	•地災害に関する情報周知のためのクイズ大会	7名
3	質の高いまちづくり、今住んでいる人が快適に	•地域のつながり •既存ストックの活用	•子どもたちの秘密基地等	8名
4	歩いて回りたくなるような賑わいのあるまちづくり	•交通拠点周辺を歩いて回りたくなるような仕掛け（ソフトの取組み）づくり	•グルメガチャ食べ飲み歩きイベント	7名

⑦企画提案発表会

日 時：令和5年12月7日（木）14：00～17：00
会 場：沖縄コンベンションセンター会議棟 B(B5～B7)

⑧受講生アンケート※企画提案発表会後実施

企画提案発表会の後、来場者及び発表した学生に対するアンケート調査を実施した。

2) 各会の要旨

①演習授業

日時	内容	参加	
		市	昭和
10/3（火） 2クラス合同	- 動画視聴:目的、スケジュール、宜野湾市のまちづくり - 講義:「本講座の目的と狙い」のヒント - グループ分けとテーマ決めについて	○	ビデオ参加
10/10（火）	休み	—	—
10/17（火） 2クラス合同	- 前回のおさらい - リクエストのあった資料紹介 - 普天間飛行場跡地利用について - 設定するテーマの検討 - これまでのまちづくり講座 - 発表時のゲスト講師による講義 ※¹	○	○
10/24（火）	テーマと具体的案取組みを検討	×	×
10/31（火）	- テーマと具体的取組み案、実施計画 - インタビュー候補の検討	×	○
11/7（火）	- インタビュー先の確定 - フィールドワークに向けた準備	×	×
11/14（火）	- インタビューの準備 - 発表準備	×	×
11/21（火）	- インタビューの準備 - 発表準備 ※一部インタビューを実施したグループあり	×	×
11/28（火）	発表準備	×	○
12/7（木）	企画提案発表会	○	○

※¹ 宋俊煥氏（山口大学 大学院 創成科学研究科 工学系学域 感性デザイン分野 建設学専攻 准教授）

②企画提案発表会

- 開催日時：令和5年12月7日（木）14：00～17：00
- 会場：沖縄コンベンションセンター会議棟 B(B5～B7)
- プログラム：第1部「学生のまちづくり企画提案発表会」4グループ
第2部「若者が地域に関わるまちづくり」
ゲストスピーカー宋俊煥氏、ナビゲーター堀江佑典
- 参加人数：計62名（受講生30名・一般11名・学生21名）※先生、事務局除く

【第1部「学生のまちづくり企画提案発表会」】

- 沖縄国際大学地域行政学科2年生

【第2部「若者が地域に関わるまちづくり」】

- ゲストスピーカー宋俊煥氏、ナビゲーター堀江佑典

宋 俊煥氏（そん・じゅんふぁん）

山口大学 大学院 創成科学研究科 工学系学域 感性デザイン分野 建設学専攻 准教授

専門はアーバンデザイン・エリアマネジメント・低未利用地活用・人口減少都市の都市(地域)再生。2019年4月から山口大学大学院創成科学研究科建築学専攻准教授(工学系学域感性デザイン担当)。実践研究活動として、学生主体で地域のまちづくりに取り組む活動の支援を精力的に行っている。（「若者クリエイティブコンテナ（宇部）」代表、まちづくり会社「にぎわい宇部」非常勤取締役等）

b) プログラム

【タイムテーブル】

- 14:00～14:05 開会 （宜野湾市）
- 14:05～16:00 第1部 学生による発表（4グループ）
「まちづくりの企画提案」
- 16:00～16:10 ～休憩～
- 16:10～16:40 第2部 ゲストスピーカーによる講演
「若者が地域に関わるまちづくり」
ゲストスピーカー 山口大学 宋 准教授
ナビゲーター 堀江 佑典
- 16:40～16:55 質疑応答
- 16:55～17:00 閉会 （宜野湾市）

c) 配信案内チラシ

若手の会、NB ミーティング、大学生（沖縄国際大学）、宜野湾市まち未来課のホームページへ掲載し、周知を行った。

沖縄国際大学×宜野湾市まちづくり講座コラボ企画 2023

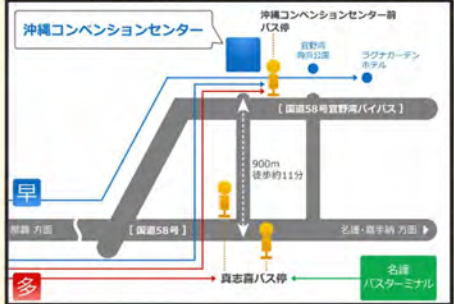
沖縄国際大学生が考える 普天間飛行場の跡地利用を見据えた周辺のまちづくり 企画提案発表会

私たち沖縄国際大学生は普天間飛行場の跡地利用を見据え、
周辺市街地における身近なまちづくりを考えることをテーマに、
2か月にわたり演習授業を通じてグループ毎にまちづくりの企画を考えてきました。
未来のまちづくりに向けた冲国大生の企画提案を発表しますので、
ぜひお越しください！

2023年 12月7日 木曜日
14時00分～17時00分（13時40分開場）

会場 沖縄コンベンションセンター
会議棟B（B5～B7）

参加無料 / どなたでも参加OK
／ 事前申込不要



『ゲストスピーカー』
そん・じゅんふあん
宋 俊 煥 氏
山口大学 大学院創成科学研究科
工学系学域 感性デザイン分野
建築学専攻 准教授

専門はアーバンデザイン・エリアマネジメント・低未利用地活用など。2016年頃より山口県宇部市の中心市街地において公共空間を活用した地域活性化に携わり、現在、「若者クリエイティブコンテナ（字部）」代表等を務める。さらに他都市においても公共空間を活用した数多くのプロジェクトに携わる。

『ナビゲーター』
ほりえ・ゆうすけ
堀 江 佑 典 氏
昭和株式会社 企画部
営業開発室 室長

『プログラム』
第1部 14:00-16:00
学生の「まちづくり企画提案」発表
(4グループ)
～休憩～
第2部 16:10-17:00
「若者が地域に関わるまちづくり」
ゲストスピーカー 山口大学 宋 准教授
ナビゲーター 堀江 佑典

※後日、当日の様子を宜野湾市HPで公開します。

〈主催〉宜野湾市 まち未来課・〈問い合わせ〉昭和株式会社 担当: 河村・新藤 tel. 098-876-5107

企画提案発表会案内チラシ

3) 企画提案発表会

a) 第1部「学生のまちづくり企画提案発表会」

■柴田ゼミ A グループ

【主なポイント】

～にぎわいのある集約型のまちづくり～

◇方向性

基地返還後、跡地にできた町ににぎわいを還元することを目指す

基地が返還されて新しくできた町には「にぎわい」という要素が欠けているのではないかと自分たちが考えたオリジナルの方法で新しい町に「にぎわい」を生み出してみたい！

◇検討結果

地元の人たちを中心としたにぎわいを作り出す企画を考える

◇企画候補

- ①整備した広い原っぱをつくる
- ②年に数回のイベントを開催する
- ③ハイビスカスなどの植物を育てる

【スライド】

宜野湾市まちづくりプロジェクト

ー柴田ゼミAグループー

沖縄国際大学 地域行政学科 2年次

22BB004 安里碧桜菜	22BB105 根路銘彩菜
22BB035 大城勇太	22BB111 平川秀哉
22BB077 知念あゆめ	22BB126 宮城鈴
22BB100 中村倫	22BB129 宮里知宏

＼テーマ／

にぎわいのある集約型のまちづくり



方向性

基地返還後、跡地にできた町に
にぎわいを還元することを目指す



基地が返還されて新しくできた町には
「にぎわい」という要素が欠けているのではないかな？

自分たちが考えたオリジナルの方法で
新しい町に「にぎわい」を生み出してみたい！

グループの
検討結果

地元の人たちを中心とした
にぎわいを作り出す企画を考える



観光客をターゲットにした「大型商業施設の建設」
ではなく、既存のものを利用し地域の人を中心とし
たにぎわいの企画の方が取り組みやすく、実行しや
すいのではないかな？



企画候補



- ①整備した広い原っぱをつくる
- ②年に数回のイベントを開催する
- ③ハイビスカスなどの植物を育てる



企画候補

①整備した広い原っぱをつくる



運動やピクニックができる場となる
子連れやお年寄りの散歩コースになる



企画候補

②年に数回のイベントを開催する



子供からお年寄りまで年齢に関係なく
地域の人が多く集まる機会になる



企画候補

③ハイビスカスなどの植物を育てる



自然の華やかさが生まれ
インスタ映えやリラックス効果に繋がる



～企画概要～

既存の広場を利用して

季節ごとのイベントを開催しよう

企画実現に向けての課題

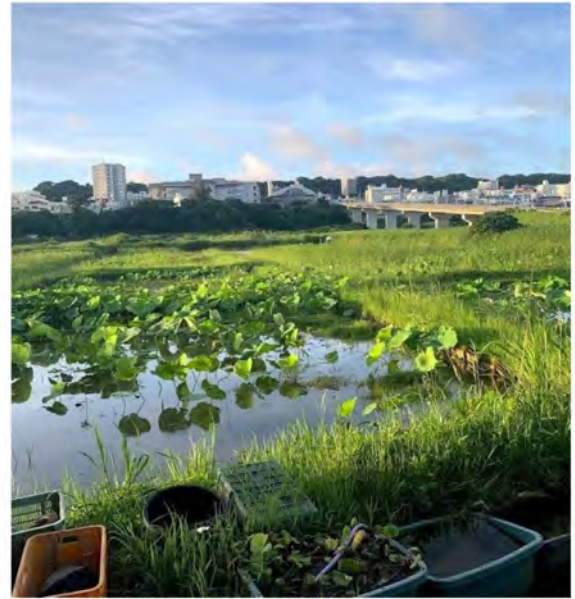
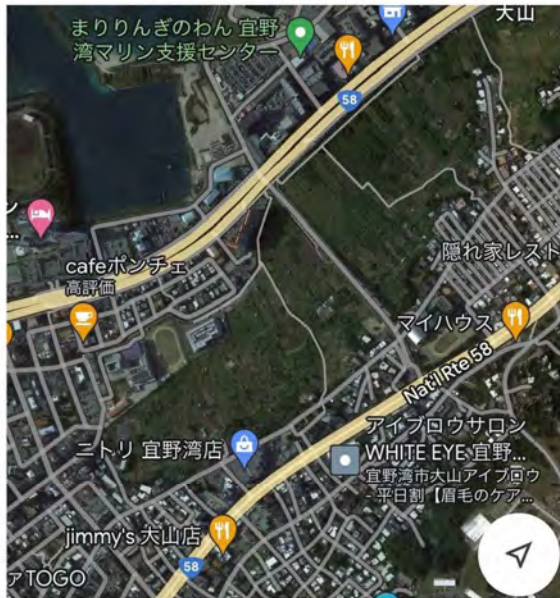
イベント開催の前にまずは
宜野湾市に興味を持ってもらう必要がある



宣伝を兼ねたイベントを行ってから実際に広場
を利用したイベントを開催する

課題解決のための具体案

- ◎ タームリンピック
- ◎ 宜野湾ぽいね写真コンテスト
- ◎ 宜野湾かるたイベント



☆タームリンピック☆

- ◎ ターム茎投げ
→ やり投げのような競技
- ◎ 苗植え競争
→ 模擬苗の植え付け時間を競う
- ◎ ターム重量当て
- ◎ 目隠しターム一当て競技



☆宜野湾ぽいね写真コンテスト☆

- ◎ 宜野湾であると認知できる写真であること
 - ◎ 笑顔になれる写真であること
 - ◎ 1人2点まで
 - ※組み写真は3枚～4枚構成で一点とする
- 〈募集方法〉
市のHP・ラジオ 等



☆宜野湾かるたイベント☆



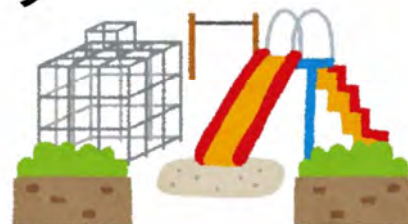
- ◎ 宜野湾市限定のオリジナルかるたを作る。
- ◎ かるたの読み札を地元民から事前募集。
- ◎ 採用された人達をいこいの市民パークでのイベントに招き、その旨を全体の前で伝える。

～企画概要～

既存の広場を利用して
季節ごとの**イベントを開催**しよう

実施地候補

- ①伊佐児童公園
- ②伊佐第二児童公園
- ③いこいの市民パーク





フィールドワーク結果 ☆伊佐児童公園☆

- ・芝生が整理されている
- ・交通アクセスが良くないため、近隣住民しか来れない（イベント目的で遠方から車で来ても止めるところがない）
- ・屋台を出すには幅が狭い
- ・人通りが少なく、隣が海なので夜に子供だけで行くには危険



フィールドワーク結果 ☆伊佐第二児童公園☆

- ・子供からお年寄りまで多くの人が利用している
- ・民家に囲まれているため騒音トラブルになる可能性がある
- ・駐車場がない
- ・イベントを開催した場合の出店スペースがない

フィールドワーク結果 ☆いこいの市民パーク☆

- ・ 場所がわかりにくい
- ・ 広場が広いため、イベントを開催する際に、十分なスペースを確保できる。
- ・ 駐車場があるため、キッチンカー等を置くことができる。
- ・ スポーツ設備が充実している



実施場所：いこいの市民パーク

〈現状〉

- ・ バスケットコートやスケートボード場があり、普段から子供から大人まで幅広い年齢層の人が利用している。



実施場所：いこいの市民パーク

〈選定理由〉

- ・ 普段から多くの地元民に利用されている広場であるため、イベントを開催した際も多くの来場が見込める
- ・ イベントで必要となる機材やテントを搬入するのに十分な広さでありイベントを広場の中心で行うことで騒音トラブルにもなりにくい

実施時期

季節の行事に合わせて開催する

（１０月のハロウィンや１２月のクリスマス）

時間帯

夕方～夜にかけて

規模

２００～３００人想定



イベントの具体案

◎ スポーツ大会

◎ ハロウィンやクリスマス



☆スポーツ大会☆

◎ スケートボード

- ・ ストリート方式
- ・ 年齢別で部門をいくつか作る



◎ バスケットボール

- ・ 3on3
- ・ フリースロー大会





☆ハロウィン・クリスマスパーティー☆

- ◎ 仮装やコスプレをして広場に集まる
- ◎ ビンゴゲームでお菓子やクリスマスプレゼントがもらえる
- ◎ クリスマスマーケットの開催
- ◎ イベントで使用する飾りの制作は地域の老人ホームや学童などに協力してもらう



運営方法、関係者

- ◎ 学生主体で企画・運営する
- ◎ 自治体
- ◎ 地域の飲食店に出店協力してもらう
- ◎ 地域の老人ホームや学童、福祉施設
- ◎ 会場の責任者

インタビューを通して

〈宜野湾市施設管理課〉

◎ イベントの宣伝はポスター、掲示板、SNS、自治会だよりを利用して行う

◎ 騒音やごみ問題が発生しないように、看板設置や声掛けを行う

〈伊佐自治会〉

◎ 予算は自治体や協賛企業から寄付してもらう

にぎわいのある町づくりの実現へ！



ご清聴ありがとうございました



【質疑応答】

発言者	内容
学生	● どこに着目して賑わいが減っていると感じたのか。
柴田先生 A グループ	● フィールドワークを伊佐第二公園へ実施した際、公園周辺が工場地帯で利用者が少なかったため。 ● また、宜野湾市は生活する上で賑わいがあると感じるが、市域の端までその賑わいが行き届いてないと感じた。
学生	● タームリンピックについて全てのターム畑が対象なのか。
柴田先生 A グループ	● 全てのターム畑が対象ではなく、全体の 30%が対象である。ターム畑は 40ha あるが、以前芋の病気が流行し、現在は 30%しか稼働していない状況である。 ● 元気のないターム畑を復活できればと思い提案した。
宋氏	● 賑わいを取り戻したい点について、大型ショッピング施設等の賑わいではなく、地域の方々がしっかりと賑わうことに重点を置いていることが良い視点だと思った。 ● 印象に残っているのはタームリンピックである。各種イベントとタームリンピック(ターム畑)は違う場所で開催するのか。
柴田先生 A グループ	● 各種イベントとタームリンピック(ターム畑)はそれぞれ違う場所で開催する予定である。
宋氏	● イベントもターム畑で合わせて開催するのが良いと思う。このエリアならではの特徴があるため、畑の賑わいも取り戻せると思う。
宋氏	● 実際、これらの企画は実施するのか。
柴田先生 A グループ	● どこまで現実的な話なのかは分からない。現状、農家さんへのアポイントメントも取っていない状況である。宜野湾市からお声がけがあれば着手したいと思う。
宋氏	● 素晴らしい取組であるため、実施すると良いと思う。初めは 20～30 人くらいでも良い。
柴田先生 A グループ	● 学生なのでノウハウがないのが不安である。
宋氏	● 行政、大学の先生など、人によって考え方は違う。ここ最近で、大型ショッピング施設の賑わいによるまちづくりは良くないことを気づき始めている。ぜひ、実現していただきたい。

【主なポイント】

～安心安全で健康に暮らせる都市づくり～

◇方向性

安心・安全で健康に暮らせる都市づくり

災害が起きても安心なまち

◇検討結果

地域づくりに着目して災害が起きても安心できるまちづくり

◇企画候補

①看板を設置

②ゴミ拾いや募金などのイベント

③歌を作って地域で放送

④クイズ大会

⑤宜野湾市のパトロール

⑥市民にスローガン

【スライド】



安心・安全で健康に暮らせる 都市づくりとは何か？

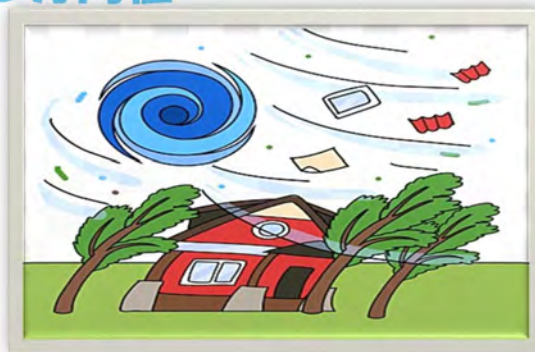
体を動かせる
施設が
整備されている

災害が起きても
安心

交通事故が
少ない

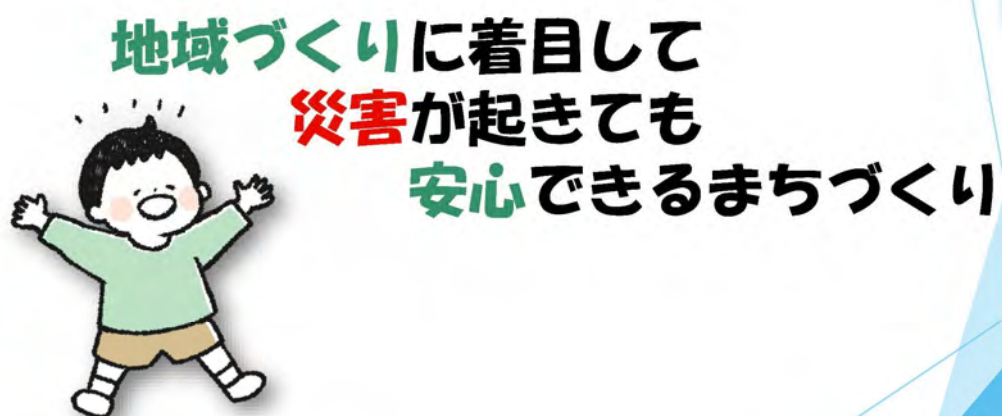
高齢者に
優しいまち

求められる方向性



災害が起きても安心なまち

グループの検討結果



企画候補①・②

★看板を設置



★ゴミ拾いや募金などのイベント



企画候補③・④

★歌を作って地域で放送



★クイズ大会



企画候補⑤・⑥

★宜野湾市のパトロール

★市民にスローガン



企画概要 クイズ大会

- ・人口約10万人(県内5位)
- ・年平均7、6個の台風が接近



災害被害 大

地域の人々と楽しみながら災害(防災)に関する知識を身につけよう!



企画概要 クイズ大会

お試しクイズ大会

Q. 問題その1

沖縄で地震や津波、台風などの災害が起きてしまいました。その時沖縄の災害情報を全て確認することができるサイトの名前はなんでしょう?

- ①防災で一びる ②あがひゃー防災 ③やしが防災

答え ①防災で一びる



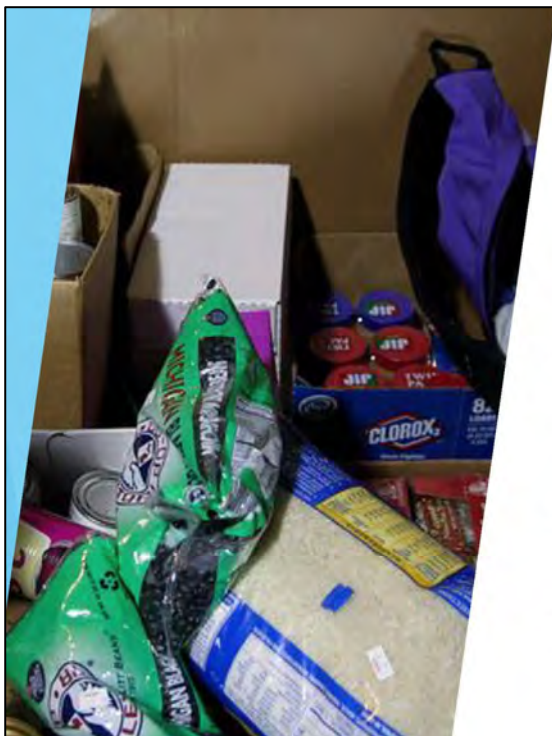
企画概要 クイズ大会

Q. 問題その2

宜野湾市に避難場所は何ヶ所用意されているでしょう？

- ① 3ヶ所 ② 56ヶ所 ③ 10万ヶ所以上

答え ② 56ヶ所



避難場所情報

- ・小中学校には防災倉庫が設置されている
- ・アレルギーに対応
- ・ハラル食の準備

防災グッズ

- ・1週間分の食料と水
(最低でも3日分)
- ・バッテリー
- ・常備薬



企画概要 クイズ大会

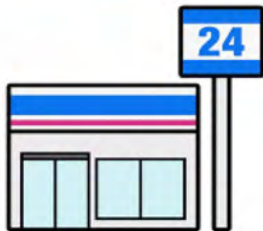
Q. 問題その3

台風の防災対策としてお金などの貴重品を用意しておきますが、この時に大切なのはなんでしょう？

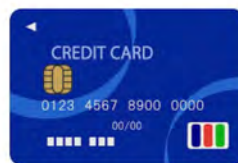
- ①一万円札などできるだけ大きな単位の紙幣を用意する ②できるだけキャッシュレスに対応する ③小銭や単位の小さい紙幣を用意する

答え ③

お金などの貴重品



©DESIGNAIR/KEE



お釣りの用意



キャッシュレスカードとATMの使用



企画概要 クイズ大会

ご参加いただき
ありがとうございました

インタビュー結果①

宜野湾市防災管理室

Q. 今災害が起きて不安なことはありますか？

A. 8月の台風での停電と断水の影響を受けて市では対応しきれない部分もあったので皆様にはバッテリーと水を用意していただきたい。



Q. 日本語が読めない外国人も災害時に避難できる取り組みをしていますか？

A. 外国人支援パートナーを締結しており、英語を話せる日本人と一緒に避難をしてくれる取り組みを行っています。あとは、マップに英語で記載をしたり、ピクトグラムを活用したりしております。

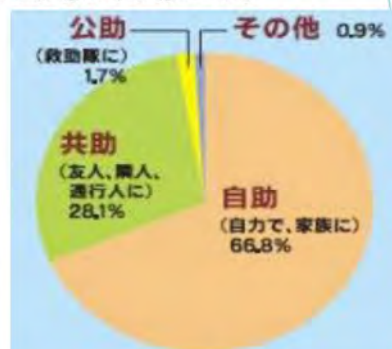


インタビュー結果②

宜野湾消防署

Q. 災害時に大切なことって何ですか？

A. 市民の皆様は公助（消防、自衛隊）を災害が起きた際に当てにしていると思うんですけど、実際は自助と共助が大切です。



インタビュー結果③

嘉数自治会

▶ **Q.景品の確保に協力いただけるか？**

A.嘉数自治会の予算から確保可能です。

▶ **Q.嘉数地区がどのようなイベントを行っているか？**

A.防災訓練(外部の方をお招きして防災に関する講習)などを地域防災の日に行っている。

▶ **Q.嘉数地区でイベントを開催するならどこが良いか？**

A.従来開催しているイベントは、公民館に併設している体育館で行っている。



**実施場所: 嘉数区公民館 兼 体育館
(自治会事務所)**



【実施期間】

→候補①夏休み期間

台風シーズンへの防災意識、
夏季休暇中の子供達の防犯へ
の意識向上も兼ねて

**→候補②地域防災の日
(12月の第1日曜日)**

自治会が従来行っている
防災イベントに合わせる

運営方法

・自治会加入者を中心に幅広い年代の参加者が
集まるよう呼びかけ

・出題者は大学生から有志を募り、防災学習を兼
ねて問題を作成

・景品は防災グッズ(自治会の予算から割り当て)



まとめ

防災に関する知識を
身につけてもらう

嘉数から宜野湾市へ
そして
返還基地でも計画を
実施



防災に関する知識を
身につけてもらう





完

【質疑応答】

発言者	内容
学生	● 台風が年に6～7回発生するが、ゴミ拾いはその都度人を集めるのか。クイズ大会だけ実施するのか。
柴田先生 B グループ	● 原則として、クイズ大会だけの企画提案である。ゴミ拾いの企画候補であり実施しない予定である。
事務局	● 授業のなかで、企画提案は基本1つに絞りこみ、その1つの企画を深掘りするようにしていた。
学生	● クイズ大会はどれくらいのペースで開催する予定か。 ● また、複数回実施する中で同じ人が参加しないような工夫はあるのか。
柴田先生 B グループ	● 回数は、夏休みと防災意識の高い12月の計2回である。 ● 参加者が被らない工夫について、今回は嘉数地域の小中学生を対象としたため、今回は別の学校で開催したいと思う。
宋氏	● クイズ大会がとても楽しかった。 ● 私は防災の専門ではないが、まちづくりの中で、安心・安全は大事な話である。発表の中にあった、「公助、自助、共助」の視点は重要である。 ● 企画候補では、看板の設置、清掃活動、募金イベント、歌を作る、クイズ大会、パトロール、スローガンが挙げられていたが、どのように提案されたものか。
柴田先生 B グループ	● グループ内で提案した際、メンバーから挙がった意見である。
宋氏	● 防災について「興味がない人、知らない人、なんとかなると思っている人」が世の中には沢山いる。どのように防災の意識を高めるかが非常に重要。様々なイベントと絡めながら、市民を巻き込んでいくと良いと思う。 ● 私の学生も防災カードを作成し、親子で楽しめるボードゲームのイベントを開催している。 ● 防災は突然発生してしまうため、突然の出来事に対応できるように、日々の関係づくりが大事になってくるため、パトロール活動等の地域活動を通して関係づくりをしていくと良いと思う。

【主なポイント】

～質の高いまちづくり～

◇方向性

質の高いまちづくり 今住んでいる人が快適に
地域のつながり 既存ストック

◇企画候補

ひみつきちの予定図 地域の方々と子どもたちで協力してつくりあげていく

【スライド】



・ 紹介

ー西普天間地区の情報ー

人 口：約11996人

返還日：平成27年3月

土 地：約50.7ha
傾斜を有した原野

西普天間地区は、平成27年3月に返還された地区で北東に位置する。現在は、旧軍用地の施設はすべて、撤去されており原野となってとなっている。



・ 関心

1. 親しみのある道

大学の近く、通学路

2. 学園都市

付近に教育施設が多い

3. 既存ストックの活用

普天間神宮、学園都市、児童センター、シャッター街



行政区別人口統計表

行政区名	日本人				外国人				計			
	世帯数	男	女	合計	世帯数	男	女	合計	世帯数	男	女	合計
合計	46,433	47,711	50,685	98,396	938	997	796	1,793	47,371	48,708	51,481	100,189
野嵩1区	2509	2767	2914	5681	36	39	13	52	2545	2806	2927	5733
野嵩2区	411	385	394	779	16	16	8	24	427	401	402	803
野嵩3区	563	581	550	1131	7	9	4	13	570	590	554	1144
普天間1区	497	420	496	916	32	29	10	39	529	449	506	955
普天間2区	303	276	300	576	1	2	2	4	304	278	302	580
普天間3区	980	948	984	1932	12	8	10	18	992	956	994	1950
新城	1788	1754	1913	3667	34	35	26	61	1822	1789	1939	3728
喜友名	1603	1631	1787	3418	23	29	23	52	1626	1660	1810	3470
伊佐	2106	1903	2107	4010	114	104	104	208	2220	2007	2211	4218
大山	3499	3609	3899	7508	100	108	117	225	3599	3717	4016	7733
真志喜	3285	3604	3911	7515	78	84	88	172	3363	3688	3999	7687
宇地泊	2059	2127	2329	4456	22	28	19	47	2081	2155	2348	4503
大謝名	2706	2585	2944	5529	46	61	28	89	2752	2646	2972	5618
嘉数	2448	2598	2685	5283	13	24	12	38	2461	2622	2697	5319
真栄原	4354	4651	4959	9610	110	119	83	202	4464	4770	5042	9812
我如古	4284	4263	4282	8545	69	80	40	120	4353	4343	4322	8665
長田	4686	4929	4918	9847	105	106	104	210	4791	5035	5022	10057
宜野湾	3076	3117	3095	6212	72	58	55	113	3148	3175	3150	6325
愛知区	2782	3003	3372	6375	24	25	29	54	2806	3028	3401	6429
中原	2493	2558	2844	5402	24	33	21	54	2517	2591	2865	5466
キャンプフォスター	1	2	2	4	0	0	0	0	1	2	2	4

課題

人口の偏り

新城：3782人

喜友名：3470人

普天間：3485人

大謝名：5618人

真栄原：9812人

我如古：8665人



南部に人口が集中している

- ・質の高いまちづくり
今住んでいる人が快適に

・テーマと
方向性

地域のつながり

既存ストックの活用

ひみつきちの予定図

- 地域の方々と子どもたちで協力して作り上げていく



子どもたちの
秘密基地

・コンセプト

01

こどもの
居場所

02

子育て支援

03

特別感

04

地域との
コミュニティ

・ステージ 1

場所の確保



場所

・いすの木通り沿いを想定

既存のコミュニティ
+
教育施設が多い



場所の候補

いすのき通りから筋道に入った空き家らしき場所

・ 広告 & 運営

- ①ポスター
- ②「市報ぎのわん」
- ③自治体



ファミリー層がターゲット
それ以外にもメディアを通して
幅広い層への広報



・ ステージ 2

ものづくり



・ 秘密基地づくり

- ・ 空き家から秘密基地を作り上げていく
- ・ 住民と子供たちが協力して進めていく
- ・ 一緒にアイデアを出し合う施設が地域に愛され、関わりの深い場所になる。



・ DIY

- ・ ティピーテント
- ・ ハンモック
- ・ ベンチ
- ・ 本棚



・ワークショップ

- ・ストラックアウト
- ・キャンドル
- ・染物
- ・パズル

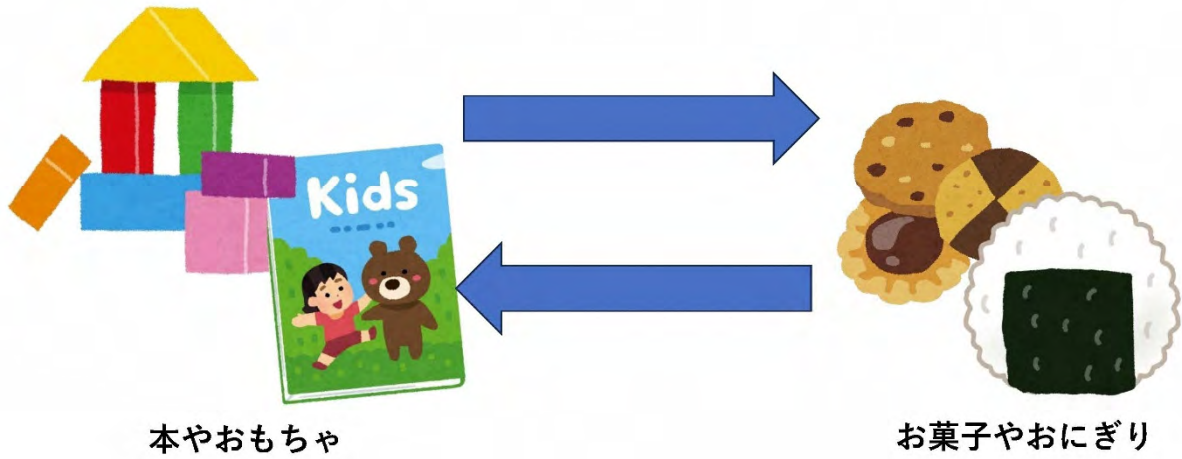


・ステージ 3

本・おもちゃを集める



・物々交換



子ども秘密基地に置
くための本や物を集
めることができ!!

子どもたちが足を運
ぶきっかけに!!



お菓子・おにぎり ヒント

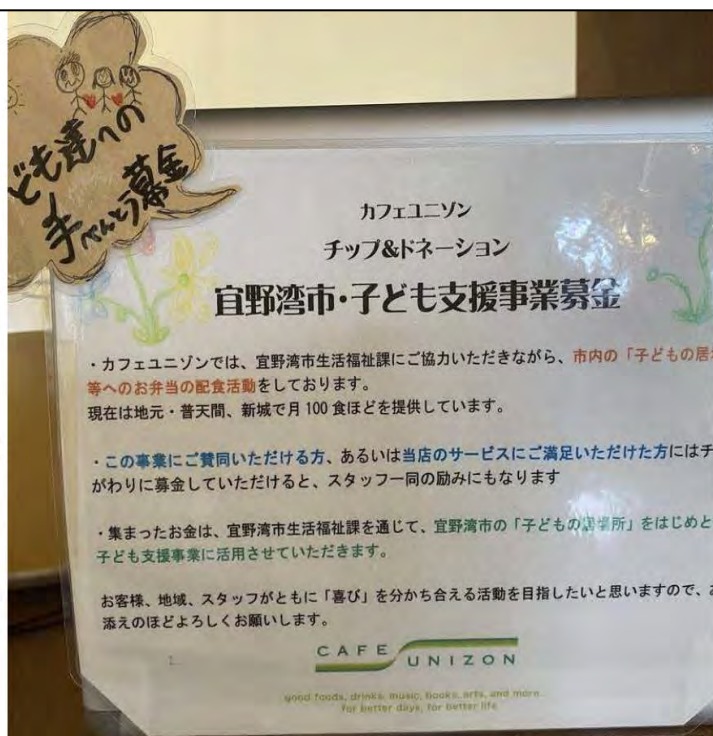


- ・先ほどの活動に参加している飲食店さんに協力をしてもらいお菓子やおにぎりを作ってもらい、物々交換の協力をしてもらう

物々交換 お菓子・おにぎり

カフェ・ユニゾンさん
チップ&ドネーション
宜野湾市・子ども支援事業募金

募金で集まったお金を使って、子ども
の居場所へのお弁当の配食活動!!



発表会を通じ ての感想

- 今回のプロジェクトを通じて慣れないグループワークなど大変なことが様々あったが、お互いに助け合う中で成長する機会となった。
- 次の課題には、これらの学びを生かしてより効果的な取り組みができるように心掛けたい。



【質疑応答】

発言者	内容
学生	● DIY をしていく過程で、安全面はどのようなことを考えているのか。
野添先生 A グループ	● 地域の人と一緒に作業をするため、地域の人に安全をみてもらいたいと考えている。
学生	● 秘密基地について、野外にテントを設置するのか、施設をつくるのか。
野添先生 A グループ	● 野外と室内の両方を考えている。ティピーテント等の小スペースで可能なものは、野外で実施しようと考えている。
宋氏	● 場所はどのように決めたか理由が知りたい。
野添先生 A グループ	● 周辺に幼稚園があり子供が集まりやすいことや、宜野湾市の課題である空家問題を解決に繋がると考え、空家らしき場所を選定した。
宋氏	● 選んだエリアは市内の北側で人口が少ないエリアとしているが、提案しているコミュニティ形成に関連した活動をしている団体がいるか調査はしたのか。
野添先生 A グループ	● していない。
宋氏	● ソフト的な活動をしている団体の有無は分からないか。
事務局	● 今はわからない。
宋氏	● もし、そのような活動をしている場合、既に実施している方と連携すると良いと思う。 ● 質の高いまちづくりとあったが、とても大切である、誰が考えたのか。
事務局	● 都市計画マスタープランのテーマである。
宋氏	● 質の高い＝子供に絞り込んだと思うが、子育てしやすく選ばれるまちになれば良いと思う。 ● 子供が好きで時間がある高齢者と子供の居場所づくりを関連させて、高齢者に見守りさせることも良いと思う。 ● 最近は児童公園でなく、プレーパーク等の子供が自分でものづくりをしながら遊べる場所が増えている。作られた空間ではなく、クリエイティブなプレーパークづくりをぜひ、空地でやると良いと思う。
野添先生 A グループ	● 安全面に不安があり、秘密基地等の取組に対する保護者へのケアを考える必要があると思う。
宋氏	● 難しい問題である。しかし、プレーパークの原点は、危険を知ることや気付くことである。やりやすいことから始め、大人や親と対話しながら進めていければ良いと思う。

【主なポイント】

～歩いて回りたくなるような賑わいのあるまちづくり～

◇方向性

宜野湾市をはじめとした賑わいのあるまちづくり

歩いて楽しめる街

◇企画候補

グルメガチャ食べ飲み歩きイベント

【スライド】



なぜこのテーマを取り上げたか

- ・ 普天間基地跡地の潜在的な価値
- ・ 賑わいのあるまちづくり



宜野湾市について

- ・ 本島中南部に位置
- ・ 面積19.8km²

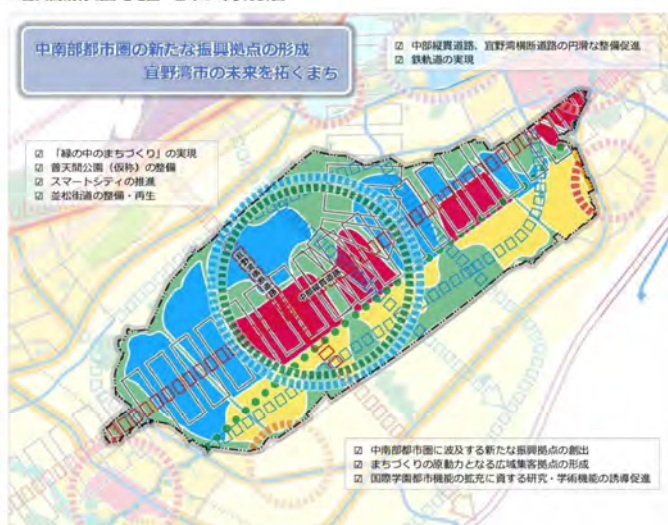
- ・ 普天間基地

〔 ・面積4.8km²
・24.3%を占めている 〕



普天間基地跡地利用について

■普天間飛行場跡地地区 都市づくり方針図



青…振興拠点
赤…都市拠点
黄…複合住宅
緑…公園緑地

引用元:宜野湾市都市計画マスタープラン（令和3年12月）第5章 地域別構想

宜野湾市の考えるイメージ



『自然に触れながら生活』

引用元:普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」



- 課題点 -

〈宜野湾市の課題〉

- 活力と賑わいがあるまちづくり
- 地域資源や特性を活かしたまちづくり
- 既存商業地の充実
- 交通渋滞



〈普天間基地跡地の課題〉

- 跡地利用で県全体に波及する拠点づくり
- 活力とにぎわいの創出に繋がる新しいまちづくり

「普天間基地跡地利用を契機とした 新しい都市づくり」

求められる方向性

- 宜野湾市をはじめとした賑わいのあるまちづくり
- 歩いて楽しめる街



歩いて楽しめるまちづくりについて
ぎのわんヒルズ通り会さんと
奥原商事さんにお話を聞きました



ぎのわんヒルズ通り



- ◆シャッターアートの設置
- ◆店舗までの来やすさのために
- ◆各店舗と連携したイベント
- ◆イベント特典の差別化
- ◆身近なところから盛り上げる



Depot Island

- ◆曲がりくねった道でワクワク感
- ◆写真映えする景観
- ◆疲れても休憩ができるスペース
- ◆魅力を維持する
- ◆地元を盛り上げる
- ◆自分たちのやりたいを大切に



引用元：Depot Island HP

歩いて楽しめるまちづくりへのポイント



- 各店舗と連携したイベント
- イベント特典の差別化
- 身近なところから盛り上げる
- 自分たちのやりたいを大切に



食べ飲み歩きイベント

グルメガチャ食べ飲み歩きイベント



＼ グルメガチャイベント ／

ガチャガチャを引くとイベント会場で
出店している宜野湾市内の飲食店の
グルメチケットが出てくる！



グルメガチャ



施設内を歩いて回って
食べ歩きを楽しむ



キーノ和歌山HPより引用

イベント概要

- ▶ **実施場所** 大規模公園エリア内
公園・緑地の広場
✓「みどりの中のまちづくり」の実現
✓開放的な空間でのイベント実施
→市民同士の交流の場に
- ▶ **実施時期** 3日間（金土日）開催を半年に1回開催
・昼→家族連れでも楽しめる食べ歩き
・夜→お酒を楽しめる飲み歩き
- ▶ **運営方法** ◇出店数約15～20店舗
◇宜野湾市の飲食店に出店依頼
（宜野湾市の通り会に所属している
飲食店・その他の飲食店）



沖縄県HP 「普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた
全体計画の中間取りまとめ（第2回）」より引用

= グルメガチャの内容 =

グルメ・ドリンク・お酒・デザートなど
カテゴリー別に分かれている
それぞれ一定価格のガチャガチャ



引換券が出てくる
※イベントで出店している店で使用

各ガチャガチャ
1日 100個限定



グルメ

ドリンク

お酒

後日、対象店舗にて半券のご提示で
お得なサービスが受けられます。

[2]サービスチケット



←QRコードを読み込んで宜野湾
市内の気になるお店を見てみよう

[1] 引き換え券 〇〇〇店

グルメ・ドリンク・お酒

1. _____
2. _____
3. _____

[2]後日飲食店を訪れることで
お得なサービスが受けられる

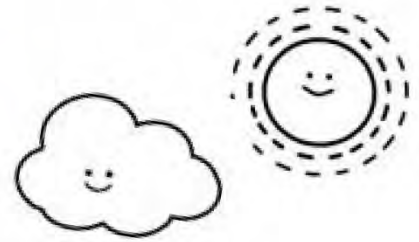
[1]イベント会場で屋台のグルメと
引き換えすることができる

グルメガチャガチャによる効果

- ✓ 全世代の人が参加できる
 - ✓ 地元の知られていなかった店が認知される
- ＝地域密着型のイベント



公共交通機関との取り組み



バス会社などと協力

- 期間内に公共交通機関を利用してる人にガチャのチケットが与えられる
- イベントの宣伝効果 + バスの利用者増加
- 発表テーマ：歩きたくなるまちづくり



＼ まとめ ／



- 01 人が歩いて楽しい街にしたい！
- 02 公共機関利用で交通や駐車場問題軽減
- 03 宜野湾市をより賑わいのある街に

今後の課題



01



イベントを開催
するにあたって
の集客方法



02



お客さんに
またイベント参加
していただく為に



～学習を通しての感想～

今回の学習を通して、宜野湾市が抱えている様々な課題や
地元の発展に向け町づくりをしてる方々の想いなどを
改めて知る事が出来ました。





【質疑応答】

発言者	内容
学生	● グルメガチャのカプセルはどのように回収するのか。
野添先生 B グループ	● 各店舗で引換券とカプセルを交換するシステムを考えている。
学生	● 食べ歩きではゴミのポイ捨てが懸念されるが、どのように考えているか。 ● また、食物アレルギーの対応はどのように考えているか。
野添先生 B グループ	● ポイ捨て問題について、奥原さんにインタビューした際、アメリカンビレッジではポイ捨てを悪化させないため、エリア内にゴミ箱を設置せず、ゴミは各店舗で回収するシステムを取り入れていると伺ったため、同じようにしたい。 ● アレルギーについては、引換券に3つ選択できるようにしており、各店舗でお客様が選べれば良いと考えている。
宋氏	● 基地内でイベントをするとのことだが、基地は入れるのか。
野添先生 B グループ	● 今ある既存地で実験して、基地返還後に基地内で開催していきたいと思う。
宋氏	● イベント時の課題として、人手不足のため出店できない等がある。しかし、今回の提案は出店せず、各店舗を周遊する食べ歩きイベントが良いアイデアと思う。まちを歩かせることについて、北谷町で実施しても楽しいと思った。 ● また、バス会社と連携することも良いと思う。20年後に基地返還がされた時に、今のように車はいるのか、自動運転になっているのか、車のない社会となっているかも考えていければ良い。例えば、イタリアのベネチアの移動手段は船であり歩いて暮らせるまちとして賑わいをみせている。
野添先生 B グループ	● バスの乗車券の支払いやイベントチケット配布について、各駅で運転手さんが一人一人対応するのは大変だと思うがどうすれば良いか。
宋氏	● そのような点まで考えられているのは素晴らしいと思う。アプリケーションを使って実施すると良いと思う。

b) 第2部「若者が地域に関わるまちづくり」

【講座の主なポイント】

～学生と連携したまちづくりの事例紹介～

- ① 草薙駅周辺地区（静岡県静岡市／静岡県立大学他）
- ② 須賀川市南部地区（福島県須賀川市／福島大学他）
- ③ 新見駅周辺地区（岡山県新見市／新見公立大学）

⇒街を育む「主役」は、活動力・機動力・発想力。大人や社会基盤がいかに「活動力・機動力・発想力」の効用を最大化するか。学生＝主役である。

～山口大学学生の取組み～

【普段の YCCU の活動】

- コンテナ・しばふ広場の運営管理(SNS)
- ビアガーデン / ● レンタサイクル / ● U サロン
- 自主 WS

【宇部市のプロジェクトへの関わり】

- 宇部市にぎわい創出検討部会 / ● TOKIWAIKOT

【質疑応答】

発言者	内容
堀江氏	● 学生がまちに関わることの価値とは何か。
宋氏	● 学生の本業は勉強・学びである。地域行政学科も同じだと思うが、1・2年生は座学が大事、その後はまちで様々な人と関わりながら形にしていき、その検証としてヒアリングやアンケートを実施して今後につなげている。
堀江氏	● 学生がまちに関わることによって、地域にとっての価値は何か。
宋氏	● 地方都市はまちづくりの担い手が少ないため、学生の一人一人が重要であると感じている。
堀江氏	● 確かにまちは、経済学等含めてあらゆる場面から学びを得ることが非常に大事だと思う。
宋氏	● 都市デザインを学ぶ人は空間で提案することが大事であり、どのようなアプローチで課題解決ができるかが大事だと思う。
堀江氏	● 大人はプロフェッショナルとして失敗は許されないが、学生はどのように活動しているか。
宋氏	● 例えば、WS は学生が参入することでピュアな気持ちで取り組むため、新しい発見がある。
堀江氏	● 今日の発表は印象的だったものは何か。
宋氏	● 全てが印象的だった。大学2年生にもかかわらず、一つ一つ丁寧に取り組んでいることが素晴らしいと感じた。

学生	● 本土に比べると、沖縄では駅がなく、人が集まるプラットフォームがないと感じている。沖縄で人が歩けるまちづくりを実現する場合、どう考えているか。
宋氏	● 実は宇部市も車社会であり、実際歩く人はいないため、苦労しているが、駐車場との関係、道路空間、ストリート空間をどうするかが大事だと思う。 ● 成功例としてアメリカンビレッジの一番良いと思うことは、駐車場(無料)が外から見えないエリアの作り方である。中央に駐車場、周りに商業施設等の歩ける場づくりをしている。アイレベルをどのようにつくるかが大事である。
学生	● 国際通りについて、無料の駐車場がなく、有料の駐車場しかない中で、観光客が多い要因はどのように考えているか。
宋氏	● まだ国際通りに行っていないが賑わいがあることは知っている。国際通りの賑わいは駐車場の問題より、観光地として賑わっていると思う。 ● 駐車場代を払いたくない人が多いことから、駐車場料金によって人の流れが変わってくる。そのため、無料駐車場のあるアメリカンビレッジは自然と滞在時間が長くなり経済効果をもたらしている。 ● 有料駐車場で商売する人がいる中で、無料駐車場を作ると不公平になってしまうことから、まちの人と連携が大事である。
堀江氏	● 歩けるまちづくりを考える時に、「歩きやすい」と「歩きたくなる」は別物である。アイレベルや視線誘導、連続性を考えることが大事である。
学生	● ベンチを斜めに配置したことや竹で作った机等のアイデアやそれを実現していることが素晴らしいと思う。
宋氏	● 有難うございます。これらは学生が全て取り組んでいる内容で大人は手助けする程度である。
事務局	● なぜ、学生のアイデアが実現出来ているのか。大人がやっていることがあれば、教えていただきたい。
宋氏	● 実際に実施する時は、チューニングが必要であり、法律、危険性、衛生面などは大人の対応が必要である。強制的に学生にやらせるのではなく、学生がやりたいことを対等な関係で実現させている。
堀江氏	● 大人がバックアップしながら、小さな成功体験をまちのなかで実現させていくことが大切である。
宋氏	● 実現できたことだけ紹介しているが、他にも提案したが実現できなかったものは多い。基本的には学生主体である。
参加者	● 4グループの発表は素晴らしいものだった。有難うございました。

4) アンケート結果

①参加者アンケート調査結果

沖縄国際大学×宜野湾市まちづくり講座コラボ企画 2023

「企画提案発表会」参加者アンケート 実施結果

【実施概要】

調査日：令和5年12月7日（木）※発表会当日

調査方法：紙面配布

調査対象：参加者32名※受講生以外

回収数：17通

回収率：約53%

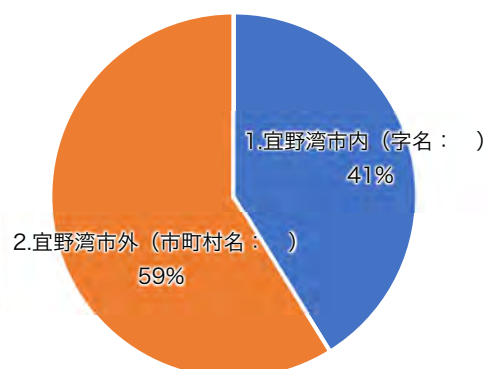
【設問】

- 1) お住まいの地域を教えてください。(1つに○)
- 2) 年代を教えてください。(1つに○)
- 3) 本企画提案発表会をどのように知りましたか？(1つに○)
- 4) 学生による企画提案に対する感想を教えてください。(記述)
- 5) まちづくりへの興味・関心は高まりましたか。(1つに○)
- 6) 今後の普天間飛行場の跡地利用に関する講座で実施してほしいテーマやその他感想があれば教えてください。(記述)

【集計結果】

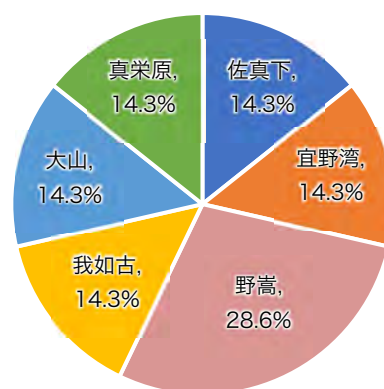
1) お住まいの地域を教えてください。(1つに○)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1.宜野湾市内 (字名:)	7	41.2
2.宜野湾市外 (市町村名:)	10	58.8
無回答	0	0.0
合計	17	100.0



⇒ 1. 宜野湾市内 (字名:) (※記述)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
佐真下	1	14.3
宜野湾	1	14.3
野嵩	2	28.6
我如古	1	14.3
大山	1	14.3
真栄原	1	14.3
無回答	0	0.0
合計	7	100.0



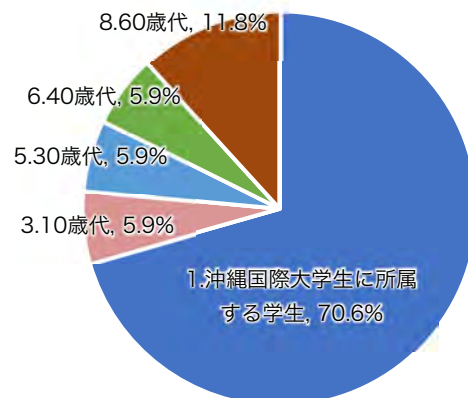
⇒ 2. 宜野湾市外 (市町村名:) (※記述)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
浦添市	1	10.0
那覇市	4	40.0
糸満市	1	10.0
与那原市	1	10.0
八重瀬町	1	10.0
南風原市	1	10.0
北谷町	1	10.0
無回答	0	0.0
合計	10	100.0



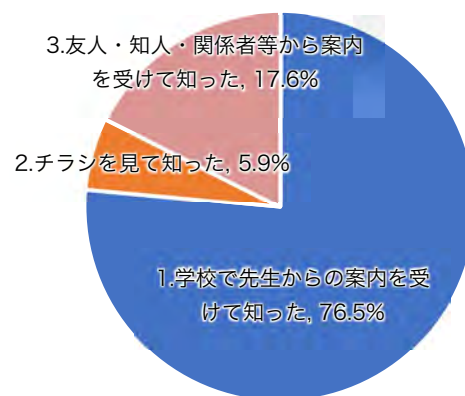
2) 年代を教えてください。(1 つに○)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1. 沖縄国際大学生に所属する学生	12	70.6
2. 沖縄国際大学生以外に所属する学生	0	0.0
3. 10 歳代	1	5.9
4. 20 歳代	0	0.0
5. 30 歳代	1	5.9
6. 40 歳代	1	5.9
7. 50 歳代	0	0.0
8. 60 歳代	2	11.8
9. 70 歳代	0	0.0
10. 80 歳代～	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	17	100.0



3) 本企画提案発表会をどのように知りましたか?(1 つに○)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1. 学校で先生からの案内を受けて知った	13	76.5
2. チラシを見て知った	1	5.9
3. 友人・知人・関係者等から案内を受けて知った	3	17.6
4. その他	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	17	100.0



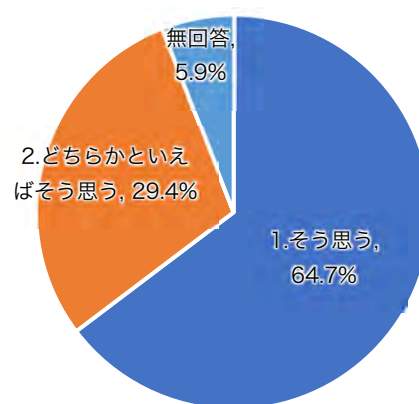
4) 学生による企画提案に対する感想を教えてください。(記述)

- 商業施設をただ作るのではなく、いろんな客層のことも考えているのがすごいと思った。
- 全てのグループが違う方向性で街の活性化について考えていて、大きい商業施設を作る等ではなく地域・地元注目しており、住民生活を通した街作りだと感じられて良かった。
- どの案も良く考えられていて、おもしろかった。アイデアとしてしてもどれも実現してほしいとも思った。
- 自分も地域活性化について授業で考えることが多いので参考になった。また、視点や考え方が面白かった。

- 自分たちが提案した企画を今後どのようにして取り組みたいかを含めて発表していて熱意が強く感じられた。
- 第 1 グループのタームリンピック、第 2 グループの防災活動に係るクイズ大会、第 3 グループのグルメガチャ食べ歩き、第 4 グループのひみつきち（秘密基地）、4 つのグループそれぞれ別々の目線（視線）で取り組んでおり、甲乙付け難く全グループ良いと感じた。
- 多様な観点からの提案であり、地元の方々と連携し実現する事にも取り組めたら良いと思った。
- 学生目線から見る跡地利用まちづくりアイデアの出る取り組みで大変良かった。地域を知り楽しく学んでください。ありがとうございます。
- 各グループフィールドワークをもとに課題の抽出、その結果についてもよく考えられていると思った。
- すべてのグループが地域に根づいた活動を中心に考えていて、地域復興ができていてすごいと思う。また、3 番目のグループ案が一番参加したいと思いました。
- 興味深い内容が多かった、特に食べ歩きガチャは町おこしとしてはすごく上手いきそうと思った。
- どのグループも画期的で楽しいイベントになると感じました。
- タームリンピックやグルメガチャなど面白そうな企画ばかりで参加してみたいと思った。
- 年齢も子どもからご年配の方までみんなで考える企画が多くて良かった。タームリンピックやガチャグルメはわくわくする要素があって実現したら面白いと思いました。
- 他の地域ではできない、宜野湾市ならではのイベントの企画が多くて宜野湾についてとても調査を行っていることが分かった。
- クイズ大会は学生だけでなく、自治体や消防等の協力があるとより、重要な知識を得られると思います。
- グルメガチャがすごく良いと思った。2km 歩いたら 500 円分、5km 歩いたら 1,000 円分のガチャが回せるなど「歩けばお得になる」というイメージがあれば、より多くの人があるくことを楽しめるなーと思いました。

5) まちづくりへの興味・関心は高まりましたか。(1 つに○)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1.そう思う	11	64.7
2.どちらかといえばそう思う	5	29.4
3.あまりそう思わない	0	0.0
4.そうは思わない	0	0.0
無回答	1	5.9
合計	17	100.0



6) 今後の普天間飛行場の跡地利用に関する講座で実施してほしいテーマやその他感想があれば教えてください。(記述)

【テーマについて】

- 子供が全力で遊べる場所作り等、広い土地を使ったパーク作り等を聞いてみたい。
- 宜野湾市民が跡地利用で何を望んでいるのかを調べ、その中から実際に取り組める企画を提案してほしい。
- 道路、交通網の多機能、利用統計調査による人事の流れなど。
- 子供や高齢者のための活動や企画も大事ですが、高校生や大学生などの若者世代を中心とした企画などのテーマも実施してほしい。
- 沖縄の都市部→人口集中、田舎→過疎 のアンバランスについて。

【イベントについて】

- キャンピング施設など。
- 市内陸上大会やスポーツ大会など大きな大会がやりたい。
- タームリンピックを開催してみしてほしい。チームによって多種多様な案が出ていてとても聞いていて面白かった。
- 地域の特色を生かしたイベントの開催。ムーチー作り体験や、タームを使った料理教室を行うことで地域の文化継承と市内外への魅力を伝えるきっかけになると考えます。

【感想】

- 他地域でも発表会を開催してほしい。
- SACO 合意 1996 年から既に 27 年が経過しようとしている。普天間跡地返還は、新基地建設の軟弱地盤問題等によりまだまだ見通しが見えないのが現状である。私は若手の会会員として大川会長代理として有識者会議等へも出席させてもらっている。跡地利用の議論は都市開発手法等技術的及びハード面の話が主となっている。有識者も各自の専門分野を主体にしており、考古学的文化的な先生からは思想的な議論も必要ではないかとの意見も出ている。私としては、哲学的な分野も取り挙げてもらって地権者及び市民・県民も含めた意識改革を行い自分事として考える態度を育成していけば遠回りに感じるかもしれないが結果的に賑わいのある笑顔があふれる“まち”になるのではないと思う。

②受講者アンケート調査結果

【実施概要】

調査日：令和5年12月19日（火）※発表後の振り返授業にて

調査方法：紙面配布

調査対象：受講者30名

回収数：28通

回収率：約93%

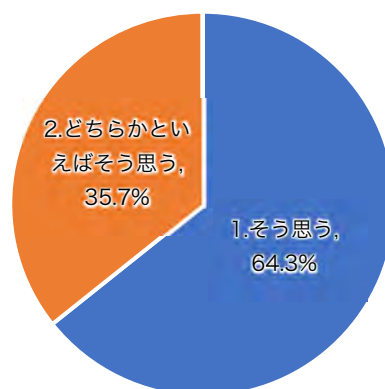
【設問】

- 1) 授業内容は分かりやすかったですか。(1つに○)
- 2) 授業内容の良かった点を教えてください。(記述)
- 3) 授業内容の改善して欲しい点を教えてください。(1つに○)
- 4) 授業回数について教えてください。(1つに○)
- 5) 授業時間外の活動について教えてください。(複数可)
- 6) 5)で3.または4.を選択した方について 授業時間外の時間の目安を教えてください。(1つに○)
- 7) この授業によって知識が増えたり、まちづくりへの興味 関心は高まりましたか。(1つに○)
- 8) グループワークは初めてでしたか。(1つに○)
- 9) グループワークの人数はどうでしたか。(1つに○)
- 10) グループワークを進めるにあたって最も難しく感じたことは何ですか。(1つに○)
- 11) インタビューを進めるにあたって最も難しく感じたことは何ですか。(1つに○)
- 12) 授業は、全体として満足できるものでしたか。(1つに○)

【集計結果】

1) 授業内容は分かりやすかったですか。(1 つに○)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1.そう思う	18	64.3
2.どちらかといえばそう思う	10	35.7
3.あまりそう思わない	0	0.0
4.そうは思わない	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	28	100.0



2) 授業内容の良かった点を教えて下さい。(記述)

【グループワークについて】

- 初めてまちづくり企画に参加し、班の人達と色々な意見や考えを共有することが出来て良かった。
- グループの皆と協力しないと今回の課題は成し遂げられなかったもので、皆で意見を出し合いながら一つのことを成し遂げられたことが良かった。
- 最初は何を調べればいいのか。どこに話を聞きに行くのか分からなかったが、やっていくうちに楽しくなった。多くの人に話を聞く機会ができたので良かった。
- グループ活動が多く、話し合いに参加できたところ。
- グループ活動で、自分達でテーマを決めて学習する機会を設けてくれたことが良かったです。
- グループ活動が多めだったので、コミュニケーションがたくさんとれてうれしかったです。
- 学生が中心となり考えることができ自主性を伸ばすことができた。
- 普段やらないことを、ゼミを通して取り組むことができたので良かった。実際に昭和さんたちが来てくれたことも。
- グループ活動が多くて楽しかったです。
- ほぼ全員としゃべれたのは良かったと思います。
- これまで、グループに分かれて大きなプロジェクトに取り組むことがなかったので、自分自身の成長にもつながった。
- 1 時間で終わる授業じゃないので、深く勉強出来たのが良かったです。
- 普段やらないことに挑戦できたこと。
- インタビューにいったことで、より企画へのアイデアや積極性がでたので、いけて良かったと思います。
- 意見を言い合えること。
- グループ各々役割を決め 1 つのものを作りあげていく工程がとても良かったなと感じる。

- フィールドワークや自治会の方々とお話しすることができ、まちづくりがどのようにされているのか知ることができた。とてもいい経験になった。
- 自分達の意見と+αで意見をくれ、円滑に進んだ。

【知識習得について】

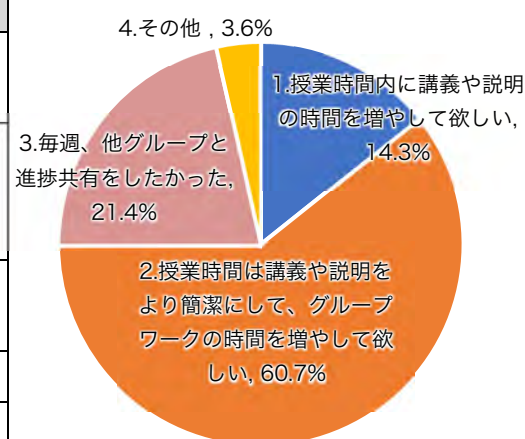
- 宜野湾市について知ることができた。
- まちづくりの仕方について知識が増えた。
- 宜野湾市のその地域について詳しく知ることができた。

【アドバイスについて】

- 何か分からない所があれば、先生たちが見て回ってくれていたのので、質問しやすかった。
- 先生方がテーマの設定から発表内容まで丁寧にチェック・助言してくれた点。
- 参考資料がすべてカラーで、わかりやすくまとめられていて助かりました。
- 昭和の方から、アドバイスを頂きながら進められた。
- 本番の発表が一般公開だったため、発表のためにインタビューに協力していただいた方も見に来てくださっていたことが一番やりがいを感じた。
- まちづくりに直接関わっている人たちから話を聞きながら、共同的に進められたことが良かった。
- 市や企業の方からアドバイスをもらうことができた。
- 昭和さんがつまっている時にアドバイスをくれて理解が深まった。

6) 授業内容の改善して欲しい点を教えてください。(1 つに○)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1.授業時間内に講義や説明の時間を増やして欲しい	4	14.3
2.授業時間は講義や説明をより簡潔にして、グループワークの時間を増やして欲しい	17	60.7
3.毎週、他グループと進捗共有をしたかった	6	21.4
4.その他	1	3.6
無回答	0	0.0
合計	28	100.0

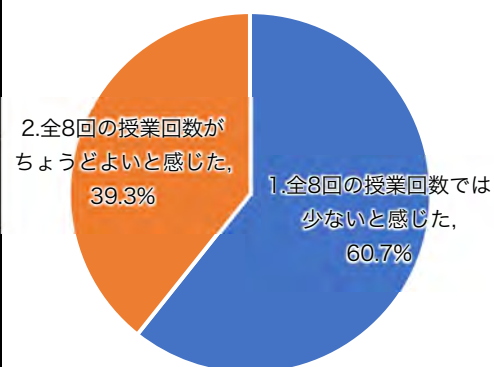


⇒ 4.その他 (※記述)

全体的に時間が少なく、説明もグループワークの時間も増やしてほしいと感じた。

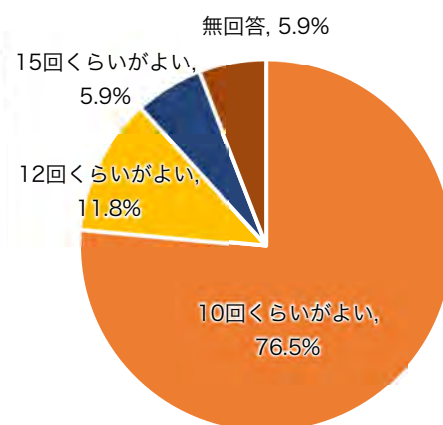
4) 授業回数について教えてください。(1 つに○)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1.全 8 回の授業回数では少ないと感じた	17	60.7
2.全 8 回の授業回数がちょうどよいと感じた	11	39.3
3.全 8 回の授業回数は多いと感じた	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	28	100.0



⇒ 「1.全 8 回の授業回数では少ないと感じた。」 (※数値)

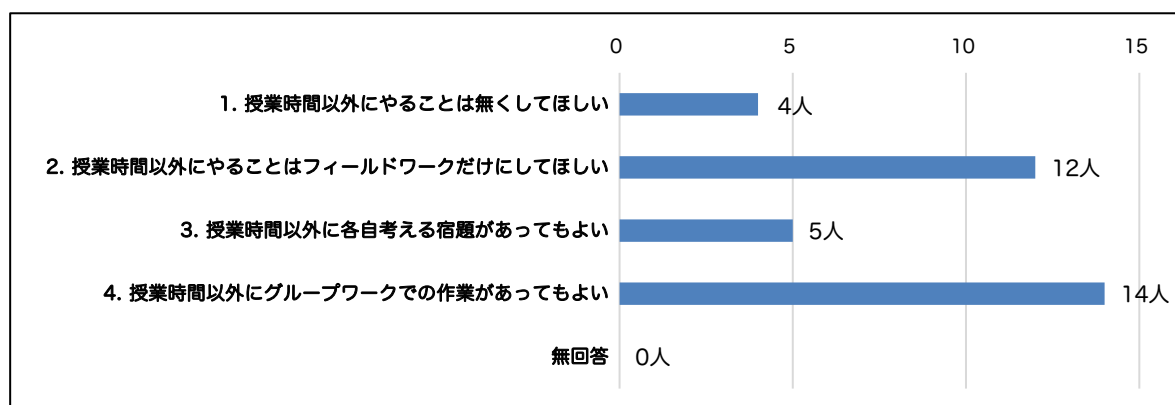
選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
9 回くらいがよい	0	0.0
10 回くらいがよい	13	76.5
11 回くらいがよい	0	0.0
12 回くらいがよい	2	11.8
13 回くらいがよい	0	0.0
14 回くらいがよい	0	0.0
15 回くらいがよい	1	5.9
無回答	1	5.9
合計	17	100.0



⇒ 「3.全 8 回の授業回数は多いと感じた。」 (※数値)

回答者なし

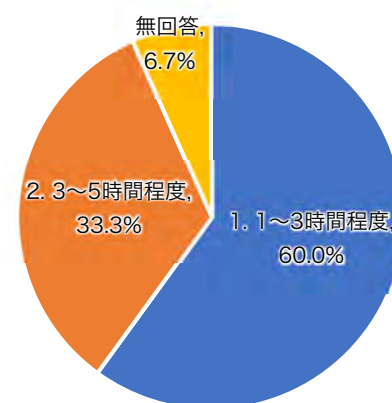
5) 授業時間外の活動について教えてください。(複数可)



6) 5)で3.または4.を選択した方について 授業時間外の時間の目安を教えてください。

(1 つに○)

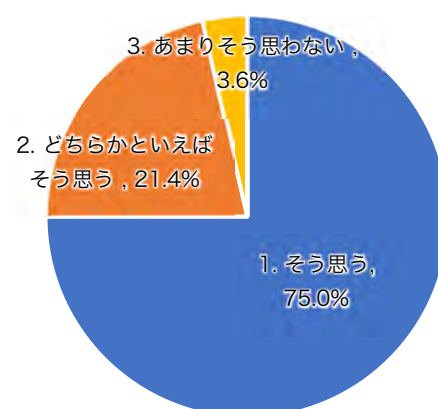
選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1. 1～3 時間程度	9	60.0
2. 3～5 時間程度	5	33.3
3. 5 時間以上	0	0.0
無回答	1	6.7
合計	15	100.0



7) この授業によって知識が増えたり、まちづくりへの興味 関心は高まりましたか。

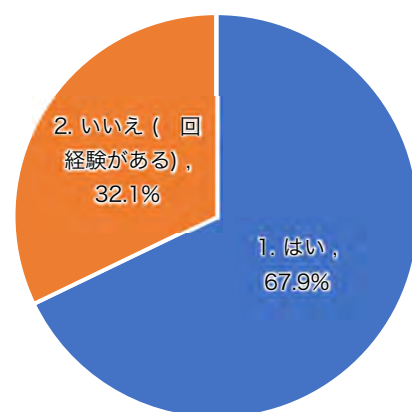
(1 つに○)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1. そう思う	21	75.0
2. どちらかといえばそう思う	6	21.4
3. あまりそう思わない	1	3.6
4. そうは思わない	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	28	100.0



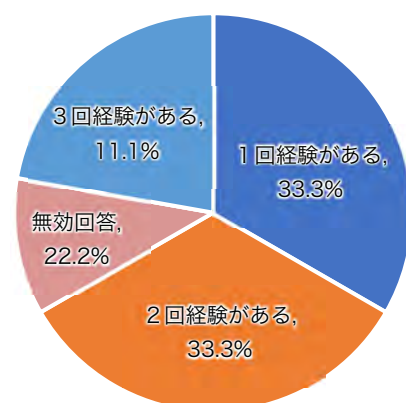
8) グループワークは初めてでしたか。(1 つに○)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1. はい	19	67.9
2. いいえ (回経験がある)	9	32.1
無回答	0	0.0
合計	28	100.0



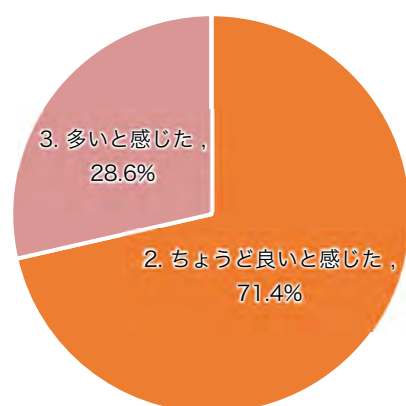
⇒ 2. いいえ (※数値)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1 回経験がある	3	33.3
2 回経験がある	3	33.3
3 回経験がある	1	11.1
無回答	0	0.0
無効回答	2	22.2
合計	9	100.0



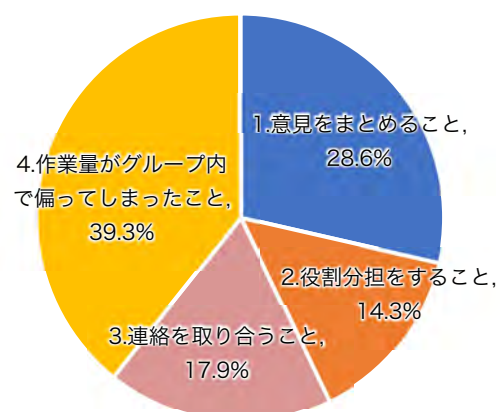
9) グループワークの人数はどうでしたか。(1 つに○)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1. 少なく感じた	0	0.0
2. ちょうど良いと感じた	20	71.4
3. 多いと感じた	8	28.6
無回答	0	0.0
合計	28	100.0



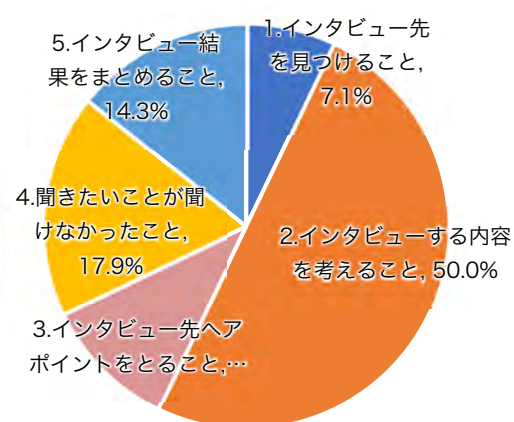
10) グループワークを進めるにあたって最も難しく感じたことは何ですか。(1 つに○)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1.意見をまとめること	8	28.6
2.役割分担をすること	4	14.3
3.連絡を取り合うこと	5	17.9
4.作業量がグループ内で偏ってしまったこと	11	39.3
無回答	0	0.0
合計	28	100.0



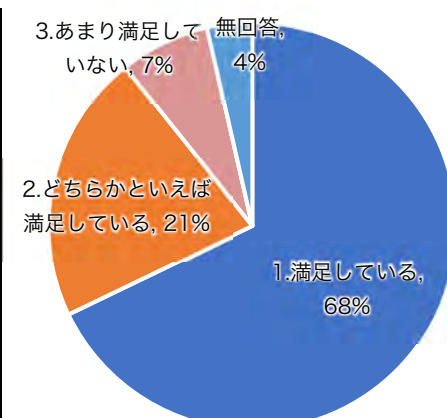
11) インタビューを進めるにあたって最も難しく感じたことは何ですか。(1 つに○)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1.インタビュー先を見つけること	2	7.1
2.インタビューする内容を考えること	14	50.0
3.インタビュー先へアポイントをとること	3	10.7
4.聞きたいことが聞けなかったこと	5	17.9
5.インタビュー結果をまとめること	4	14.3
無回答	0	0.0
合計	28	100.0



12) 授業は、全体として満足できるものでしたか。(1 つに○)

選択肢	回答数 (名)	割合 (%)
1.満足している	19	68
2.どちらかといえば満足している	6	21
3.あまり満足していない	2	7
4.満足していない	0	0
無回答	1	4
合計	28	100



⇒ 「3.あまり満足していない」と回答した人の 13) 記述

- 今回の企画で学生でもまちづくりをしている人が分かった。あまり積極的に参加できなかったので次もあたら意見積極的に出す。
- 無回答。

13) その他、ご意見・ご感想などあれば書きください。(記述)

【意見】

- グループワークでは、グループにつき事務局を 1 人同席させて欲しい。来年以降もぜひ続けていってほしいです。
- 他のゼミとの意見交換がやりたかった。
- フィールドワークの時間や調べる時間を増やしてもいいと思う。
- グループワークは楽しかったけど、少しだけ人数が多いように感じました。7,8 人じゃなくても 5 人とかの方が役割分担もしやすく、グループ内での作業量の偏りも減ると思

いました。(活動の内容にもよる)グループワークではメンバーも変わるので、全員とコミュニケーションがとれたのは、本当に良かったと思います。(おかげで今回のようなテーマだと意見とかが出しやすかった)

- グループ全員の理解を一致させるためには話し合いの時間を増やし、進め方についても、具体的に説明して頂けたらよかったと思います。
- 人数はこのままでもいいのですが、4人とかで組むと、もっと一人一人が積極的になると思いました。
- グループ内の男女の比率は同じくらいが良い。
- 小人数のグループの方が、意見や日程調整がしやすくなると思います。
- 全然知らない未知のジャンルの「まちづくり」という事について考え調べたが、とても大変で、初めて知ることが多かった。基本的には、学生主体のプロジェクトだったが、もう少し、大人の意見があってもよいと感じた。

【感想】

- 普段そこまで意識しなかった事を自分達で調べてまとめていく良い機会になったし、それが1つの知識として身に付いた。この取り組みが後世に伝わっていくと事で、本格的なまちづくりのヒントになってくれたら嬉しいと思う。
- 今回の企画をやることが決まったとき、正直あまり乗り気では無かったが、グループの皆で目の前の課題を一つずつクリアしていくことで達成感を感じることができた。フィールドワークを通して知ることができた知識や、今回の発表で得られたものは、自分にとって大きな自信につながったので、コラボ企画に参加できて良かったと思う。他のゼミより一歩前に進んだ気がして良かった。
- 今回のまちづくり講座で、今まで知らなかった基地の跡地利用について学べることができたので良かった。
- 基礎演習で初めてグループ活動をしたが、思ったよりスムーズにいけて発表がしやすかった。役割をしっかりとこなさないと、グループの皆に迷惑かけてしまうので、しっかりやろうと思った。
- 宜野湾市のまちづくりの計画を考えてみて、最初はまとまるか不安だったけどやっていくにつれて、色んな知識も増え、みんなの考えも共有することができて、とても良い機会になりました。本当にありがとうございました。
- 宜野湾市のまちづくりについて、グループで協力して自ら意見を出し合って実際の問題を考えたり、インタビューやフィールドワークはとても良い経験になりました。最初は案を合致させるのにとまどったけど、最後までパワポを作成して、発表までできて良かったです。
- 今回活動した7,8人のグループは前期までの成績を参考にして決めていたようなので、活動と円滑に進めることができる人に偏りがなかったのが良かったです。「まちおこし」というものがどんなものなのか、自分たちは何を調べ、何に注目しなければいけないのか、活動の中盤まで分かっていなかった部分が多くありました。

- 今回、この企画に取り組んでみて思ったことは、最初は自分たちが最後まで成し遂げられるのか、とても不安でしたが、グループで納得のいく企画が作れたので、やって良かったなと思いました。この企画は実際に宜野湾市の方々と関わって、自分たちが主体となって動かないと成立しないし、こんなに大人の人と関わることはとても貴重な経験になるので、「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」にも繋がると思いました。また、グループワークを通して、自分がやるべきことも分かって、考える力もついたり、グループのみんなともより仲良くなれたので、この企画で得たものはとても大きいと思います。
- このグループワークをする上で、様々な力（発言力、調べる力、団結力）などを身につける事が出来とても良かったです。
- ゼミ内の交流の機会が増えて自分自身も価値観を広げられた。今この年齢ならではの私達の発想力や想像力を活かせる発表会だった。まちづくりに限らず、もっと積極的に発想していきたい！と思えるような機会だった。
- コンサル会社の方や市役所の方、先生方など大人の方達の協力が大きく、プロジェクトの規模の大きさに圧倒されました。良い経験になりました。
- 貴重な経験をさせていただけたこと本当に感謝しています。
- 学生たちを中心に、まちづくりの人たちや、インタビュー先の方々にも意見をききながら、みんなで進めることができ本当に良かったと思うし、想像以上に難しくて大変だったけど、発表をし終わって、とても達成感があって、頑張った良かったと思いました。ご協力ありがとうございました。
- 今回の活動を通してまちづくりの感心が上がった。もともとまちづくりに興味があり、行政以外の人々も協力して行っていることを知った。
- 最初は男子が人数の割合的に多い中、少し不安も感じましたが、話し合いがすすむ中で、親ぼくも深まり楽しく企画を進めることができた。
- ゼミで初めてグループ活動を行い分からない事もたくさんあったが、やり遂げた後の達成感はあった。ゼミのメンバーと仲良くなれてよかったと思う。
- 今回の発表会は、とても貴重な体験で、自分的にはすごく良かった。

③授業後の振り返り

■全般について

柴田先生

- 最後の取りまとめや、企画提案発表まで急ピッチになってしまったと感じる。前期の段階からグループワーク等の授業ができれば良かったと思う。
- グループ毎に偏りが出てしまった。

野添先生

- 学生の充実感があったことが一番良かった。本来であれば、やりたい学生がやるべき授業であると思う。やる気のない学生には勿体無いと感じた。学科全体を通して、ゼミの進行の仕方を考え直さなければならないと感じている。
- グループワークの人数について8人は多いと感じたが、少人数、宜野湾市の課題解決を考えた上で企画するのがあるべき姿だったが、企画提案に重きがおいてしまったことから、課題解決の曖昧になってしまった。今後は宜野湾市の現状把握や、課題解決に重きをおいた指導ができればと思う。

上江洲先生

- 準備について、授業前に方向性を固めて学生にどこまで求めるかを明確にしていれば良いと思った。前期にグループワークやフィールドワークを実施し、土台づくりができれば良かったと感じている。
- 柴田ゼミで別のアンケートを取ったが基礎演習、学生に偏りが出てしまったことに不満を感じている。人数について、能力ややる気の差で人数が多い少ないに関わらず、グループごとに差が出てしまう。差があるグループ程、完全な分業制になってしまい、自分の担当分しかやらなくなってしまう。本来であれば、グループワークのため、すべての作業を分業し幅広く作業を進めていくもの。前日や当日の馬力で乗り切ることができたが、プラス2回の授業があればもう少しオリティ高く出来たと思う。一方で、年内に終わらせることができ一安心している。
- 他のゼミの授業の仕方は分からないが、先生のアシスタントを付けるなどして2人体制にできれば良いなと思う。

■グループワークについて

- グループワークにあたってはグループ内で役割分担をさせていくと進めやすいのではないか。(柴田先生)
- グループ間の偏りについて、まちづくりワークショップを実施する時は必ずグループ間の共有をするのが多い。そうすることで、お互いの進捗状況がわかり作業が進めやすくなると思う。(事務局)

■講義の資料について

- 講義の資料のボリュームが多く、何が重要であるかわかりづらかったのではないかと

と思う。(事務局)

→意外にも学生はお守り代わりに読んでいた。参考資料として何かあれば読んでいたが、しっかりと内容を理解していたかは分からない。(上江洲先生)

→資料をどう理解すればよいか分かっていない状況は見受けられたが、何回も見ていた。(野添先生)

■現状把握について

- インタビューをする前に学外学習があると良いと思う。沖縄のまちづくりの全体像を見ることが現場を知ってから動けると思う。(野添先生)

■授業運営について

- 大人の誘導について、入れ替わり立ち代わりで色々な意見を言ってしまうと学生が困ってしまうことがあった。大人の意思疎通について事前に方向性を示していければよかったと思う。(柴田先生)
→事務局での事前打合せをもう少し実施出来れば良かったと思う。(事務局)
- 回数は10回程度が良いと思う。10回のうち、10回とも昭和がいた方が良いと感じた。方向性が教員と異なってしまうため。(柴田先生)
- どこまで進んだのかは共有できたが、教員・昭和通しで何をいったかを共有はできなかったのが反省である。(柴田先生)
→各グループレポートを作成し、どこまで進んだか、今後のアドバイスを伝えて共有を図れば良いと思う。(事務局)

■発表について

- 発表は校内で開催するよりも外のホールが良いと感じた。意識が上がる。(柴田先生)

■次年度以降の実施について

- 次年度は、ゼミの方向性を明確にしていくと良いと思う。グループワークの進め方、まちづくりの知識が身につきます等の指導要領を改定していくことで、今後も継続していけるものがあると思う。(事務局)
→次年度も進めていきたいと考えている。実際にアクションに繋がれることが良いと感じるが、予算などの課題が出てくることから、2～3回程度繰り返しできれば良いと思う。(事務局)
→次年度以降もこの取組みを継続する。(全員)
- 興味がある人だけが授業に参加できるシステムか、基礎演習で実施できるものにするか。(柴田先生)
→当初は消極的であるが、強制的にグループワークですることが決まると積極的に実施する。(上江洲先生)

- 次年度について、異なる学年が混在する授業で開催すると偏りが出てきてしまうと思う。(柴田先生)
→取り組める対象として2年生で良いのか。(上江洲先生)
→2年生がちょうど良かったと思う。(事務局)
- まちづくりに興味を持ってもらい、伝えたいことが伝わって、その先は実現に向けて何か実施しなければならないと思う。その先のプログラムがあれば良いと感じている。(事務局)
→宋先生が行っている「学生主体で地域のまちづくりに取り組む活動」ができれば良いと感じた。今回は初回でモデルとして実施したが、今後も継続して実施していくにあたり何かをできればと思う。(上江洲先生)
→学生のプラットフォームづくりについて、入りやすい環境を数年で築き上げて学校以外で活動できる環境を作ると良いと思う。(事務局)

5) 今後の課題

【取り組み成果】

●開催方法と開催結果について

- ・沖縄国際大学とコラボし、大学2年生の中から2クラスに協力頂き演習授業を通じた取り組みを実施することができた。
- ・大学生による企画提案を市民、地権者、若手の会及びNBミーティングに対して発表し、学生とともにつくるまちづくりについて考える講座を開催することができた。

●合意形成・情報発信の取組について

- ・大学生が、10月から約2か月間の演習授業を通じて普天間飛行場の跡地利用とその周辺市街地におけるまちづくりについて企画提案する機会をつくることができた。
- ・今後普天間飛行場のまちづくりに向けた具体的な取組の重要な担い手の一役を担う大学生とともに進めるまちづくりについて、市民、地権者、若手の会及びNBミーティングの方々に伝える機会をつくることができた。

【今後の課題】

●沖縄国際大学とのコラボについて

- ・次年度以降継続して演習授業を活用した取組を行う。
- ・演習授業実施の際にはコンサルが各回に出席してグループワークのサポートをすることが望ましい。

●今後の計画づくりについて

- ・まちづくり活動の実践に繋がるよう、学生を始めまちづくり活動の担い手の受け皿となる組織（場）づくりに向けて2～3年程度の計画を立てて実施することが望まれる。

(2) 先進地視察会及び合同勉強会等の企画・開催

1) 開催概要

若手の会が今年度に検討する各テーマについて、国内先進地事例情報の収集・蓄積及び議論の深化を目的として、先進地視察会及び合同勉強会を実施した。

【開催日程】

現地視察会：令和5年10月19日（木）～10月21日（土）

【視察テーマ】

■人が集う拠点整備とまちづくりの実践

まちなかの賑わいを創出するために必要な拠点整備や、地域と学生が連携した低未利用地や道路を活用した社会実験や、未来の街に必要な場づくりを実践している地域を視察することで、今からできるまちづくりの実践に関する知識の習得を図る。

■賑わいと交流を育むウォーカブルなまちづくり

公民学が連携した歩行者や地域の公共交通を重視した空間づくりや、歩いて楽しい・安心・安全な道路空間の創出に取り組む地域を視察し、賑わいと交流を育むウォーカブルなまちづくりに関する知識の習得を図る。

①視察先

月 日	視 察 先
10/19（木）	松山市役所 都市整備部 都市・交通計画課（愛媛県松山市）
10/20（金）	松山アーバンデザインセンター（UDCM）（愛媛県松山市）
10/21（土）	若者クリエイティブコンテナ（YCCU）（山口県宇部市）

②視察スケジュール

日 時		内 容	備 考
10/19 (木)	12:05	那覇空港 集合	・松山市役所 都市整備部 都市・交通課 越智氏
	13:05	那覇空港 出発	
	14:50	松山空港 到着	
	15:20	松山空港 出発	
		↓貸切バスにて移動(約30分)	
	15:50	松山市役所 到着	
	16:00	◆座学(90分) ・花園町通りの再整備 ・松山市駅周辺駅前広場再整備	
	17:30	視察終了	
	17:45	宿泊ホテル到着	
10/20 (金)	8:45	宿泊先ホテル出発	・松山アーバンデザインセンター 講師：渡邊氏
		↓バス移動(約5分)	
	8:50	松山アーバンデザインセンター 到着	
	9:00	◆座学(65分) ・UDCMの取組み	
	10:05	座学終了	
	10:10	◆現地視察(60分)	
	11:10	視察終了	
	11:15	昼食会場に出発	
		↓バス移動(約10分)	
	11:25	昼食(60分)	
	12:50	昼食終了	
	13:00	フェリー乗り場(三津浜港) 出発	
		↓貸切バスにて移動(約30分)	
	13:30	フェリー乗り場(三津浜港) 到着	
10/21 (土)	13:45	三津浜港 出発	・宇部市役所 都市政策部 中心市街地活性化推進課 講師：光木氏 ・若者クリエイティブコンテナ講師：宋氏 ・(株)にぎわい宇部 講師：石井氏 常盤通り(社会実験会場) 新天町(イベント会場)
		↓フェリー移動(約2時間30分)	
	16:20	柳井港 到着	
		↓貸切バス移動再開(約2時間)	
	18:30	宿泊先ホテル到着	
	8:45	宿泊先ホテル出発	
		↓バス移動(約5分)	
	8:50	宇部市役所 到着	
	9:00	◆座学(90分) ・ウォーカーブルなまちづくり(社会実験) ・(株)にぎわい宇部の取組み ・YCCUの取組み ・山口大学 学生の取組み	
	10:30	座学終了	
	10:40	◆現地視察(60分) (社会実験会場 → 新天町イベント)	
	11:40	若者クリエイティブコンテナ 出発	
		↓バス移動(約10分)	
	11:50	若者クリエイティブコンテナ 到着	
	12:00	◆現地視察(30分)	
	12:30	視察終了	
	12:45	宇部市 出発	
		↓貸切バスにて移動(約3時間00分)	
		昼食(バス車内)	
	15:45	福岡空港 到着	
	17:15	福岡空港 集合	
	18:15	福岡空港 出発	
	19:55	那覇空港 到着	
	20:10	解散	

③参加者名簿

NO	所 属	氏 名
1	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	大川 正彦
2		伊佐 力
3		新垣 裕輝
4		宮城 政司
5	ねたてのまちベースミーティング	呉屋 勝広
6	宜野湾市軍用地等地主会	砂川 はるか
7	宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課	永山 拓朗
8		仲本 彩乃
9	昭和株式会社	崎山 嗣朗
10		池村 さつき

2) 視察内容

【視察先位置図】



3) 各視察先の概要

①花園町通りの再整備について（愛媛県松山市）

【背景】

松山市の中心、松山市駅と堀之内公園を結ぶ幅員 40m の道路。市民・行政・専門家が一緒になり 7 年の月日をかけて道路構成の見直しに取組み、2017 年 9 月、にぎわいと交流を育む都市のコモンスペース（共有空間）として再生した。

花園町通りの整備では、これまでの自動車の交通中心の通りから、歩行者や自転車といった「遅い交通（スローモビリティ）」に配慮した空間への更新を目指した。

道路の総幅員はそのまま、片側 3 車線あった道路を片側 1 車線に減らし、歩行空間を拡大するとともに、沿道と統一的なデザイン整備を行うことで、街路空間を「居心地がよく歩きたくなる」ウォークアブルな空間へと再構築している。こうした道路空間の再配分により生まれた空間が、人々の日常的な交流やイベント利用など様々な活動の場となり、まちに新たな価値を生み出している。



整備前



整備後

【事業期間】：平成 23 年～29 年度

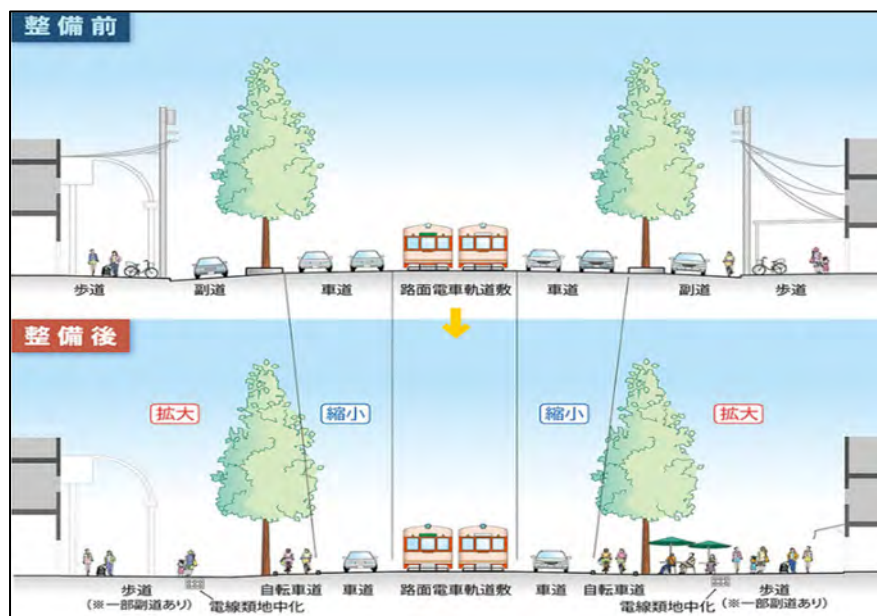
【延長】：L = 250m

【幅員】：W = 40m

【総事業費】：約 12.5 億円

【整備概要】：電柱類の地中化・車線の縮小(片側 2 車線→1 車線)

自転車道の新設 (W = 2)・歩行空間の拡幅 (W = 4～10m)



(ア) 座学

松山市の概要と現状、歩いて暮らせるまちづくりの取組事例の紹介等について、松山市役所 都市整備部 都市・交通計画課 柚山主幹、村井主幹、依光副主幹、依光越智技師より説明を受けた。

日 時	令和 5 年 10 月 19 日 (木) 16:00~17:30
会 場	松山センタービル 1 号館 4 階 5 会議室

【松山市の概要と現状】

- 人口減少、少子高齢化が進んでおり、今までと異なるまちづくりを考える必要がある。
「歩くこと」が健康増進と医療費節約を生むことから、歩行を支援するための「歩行空間の魅力向上」と「歩行環境の整備」が重要である。
- 平成 23 年 3 月に都市計画マスタープランの見直しを行い、「効率的で効果的な都市経営」と「松山らしい愛着を感じられる都市形成」を目指す方針を掲げている。
- 目指すべきまちの姿にコンパクトシティを掲げているが、「まちなかに人が集まれば良い」ということではなく、それぞれの核となる拠点で地域生活拠点を設けていく考え方である。都市拠点を中心に、郊外電車の利用が多い場所を地域生活拠点とした、歩行環境の充実や交通結節点機能の充実や公共交通の利用促進と利便性をあげる取組みを行っている。
- 公共交通を持続的に維持・存続していくために、電車やバスの路線周辺に人が居住を進めていく区域として都市計画を進めている。

【花園町通り～広場を備えた道路～（整備期間：平成 23 年～平成 29 年度）】

- 城山公園内（かつての堀之内公園）には、陸上競技場や野球場、四国がんセンターなどの施設があったが、現在は松山市民会館、県美術館以外の建物は全てなくなっている。国の史跡指定がされたことで、老朽化による施設の建て替えが認められず芝生広場として活用している。
- 以前の花園町通りは低いアーケードは暗い歩行環境をつくり、多くの空き店舗がみられた。また、大量の放置自転車と有効活用されていない副道がある通りだった。
- 堀之内公園内にあった施設が移転した 2000 年頃から自動車の交通量が減りはじめ、2015 年には約 7500 台と 35 年前の 1/2 まで減少した。
- 道路のリニューアルに向けて、ワークショップや現地のまちあるき、模型を使用した道路空間のイメージをもとに話し合いを行った。
- 話し合いの結果、交通量の減少も見られることから、道路を 6 車線から 2 車線に変更、また、歩道を広げて自転車道を新たに整備する。電線の地中化や広がった歩道空間では、沿道と一体的な景観整備などを整備することとなった。
- 4 車線から 2 車線に車線が減少することで交通渋滞がおきないか、ミクロ交通流シミュレーションによる交通状況の検証を行い地域の方にみていただいた。合意形成のツ

ールの1つとして活用した。

- シミュレーションのみではなく、車道を減らして自転車道の設置や、放置駐輪対策の駐輪場を設けた。また、副道にイスやベンチを置きマルシェ等を開催した賑わい空間を設けるとどうなるのか検証した。
- 歩行者に対しては照明灯やスポットライトを設け、バリアフリーの関係上で照度を設けるためにフットライトも用意した。照明柱のモチーフは花、本物の素材の自然石や鋳物を使用した。
- 花園町通りは、正岡子規の生誕跡地であり歴史と文化を感じ、愛着が持てる仕掛けを施している。子規が詠んだ植物の句碑と実際の植物を設置しており、その場で俳句が浮かんだ方のために紙と鉛筆があり俳句ポストを設置している。照明柱の「花園町通り」の文字は子規の直筆で彫り込んでいる。
- 整備効果としては、整備前（平成 20 年）と比べ整備後（平成 29 年）は歩行者の数が約 2 倍増加し、地価も上昇がみられている。



座学のように

(イ) 質疑応答

Q 1：「歩いて楽しい健康増進のまちづくり」を進めていく中で、まちなかを徒歩や公共交通を利用させる取組みとして実施していることがあればご教示ください。

⇒人が歩きやすい空間は、歩道空間、幅員が広いことが大切。ローブウェーや花園町通りの歩行者通行量が増えた要因として、道路整備と併せてファサード整備をして景観をよくしている。また、電線類の地中化によりバリアフリー化することで人が歩きやすくなる。

工夫の例として、歩いてほしい通りには駐車場を設けずに、あえて駐車場を少し離れたところにつくる。目的地までは魅力的な店舗があることで、歩きたくなるような仕掛けをしている。

Q 2：再整備を進めていく中で、地域住民と合意形成を図るためワークショップを開催しておりますが、改変後の沿道の使い方について期待する意見がある一方で、不安要素を挙げる人もいます。不安要素を取り除くためにどのような説明をされたのでしょうか。

⇒社会実験後に花園町通りの沿線の居住者と利用者にアンケートをすると、利用者の約 9 割が「車線を減らしてにぎわい空間を設けましょう」と答える。しかし、沿線の居住者は「元のままでいい」と「歩行者空間を広げたほうがいい」が約半数に分かれていた。元のままが良いと答えた方で、まちづくり勉強会に不参加の方にはニュースレターを配布。丁寧に説明を重ねて不安に思

っている方や心配されている方の不安を少しずつ払拭して合意形成を図っていた。

整備後は明らかに人の流れが変わり、地価も上がっている。まちなみが評価されているので、反対されていた方にも「整備して良かった。」と言っていた。

⇒反対者には粘り強い交渉が必要。説明したら分かってくれる人と、最後まで断固として反対という人、話も聞いてくれない方の3パターンいる。ただ、総論は賛成なので、対1人の意見を聞き入れることなく、商店街組合で合意形成を図りながらやっていった。商店街や町内会の役員会で説得、納得していただきながら、整備を進めていった。

Q 3 : 花園町通りの公民学連携した「学」はどういう形で連携したのか。例えば技術を持って参加したのか、もしくは若い人たちの意見を取り入れたのか。また、花園町通り以外で公民学連携の取組みがあればご教示下さい。

⇒花園町通りに、「松山アーバンデザインセンター」というまちづくりシンクタンクがあり、松山市がここの寄付口座に費用を払っている。アーバンデザインセンターは、東京大学の加藤先生がセンター長で、愛媛大学の先生も入っている。まちづくりビジョンの作成や、担い手育成の活動をしている。松山アーバンデザインセンターからいろいろアドバイスをいただき、花園町通りの整備をした。

⇒アーバンデザインセンターは平成 26 年設立のため、道後温泉やロープウェー街の整備の時にはなかったが、協議会や勉強会を立ち上げて地元の大学の先生にも参入いただき、専門的な意味合いの「学」として意見を聞いた。花園町通りで開催しているマルシェや日曜市は大学生に手伝っていただいている。

⇒ワークショップを開催する時は、地元住民だけでは活発な意見が出にくい。学生は斬新でいい意見を出してもらえたため声かけをして参加いただいている。

Q 4 : 整備後の空き店舗の状況についてご教示下さい。

⇒営業店舗が 95 店舗から 147 店舗に約 1.5 倍に増えた。花園町通りは、アーケードを撤去したことにより 2 階、3 階までテナントが見えやすくなったことでテナントが決まりやすくなっている。間違いなくいい効果である。

(ウ) 松山市のこれまでの取り組み

【歩いて暮らせるまちづくりのネットワーク】

- 城山公園から花園町通りを通して松山市駅へ、そして、銀天街、大街道、ロープウェー街、にきたつの道を経由して、道後温泉に向かうまでの全長約4キロメートルで、賑わいの空間や歩行者のネットワークづくりを進めている。
- 松山市駅は、このネットワーク形成に重要な拠点である。

出典：松山市 HP



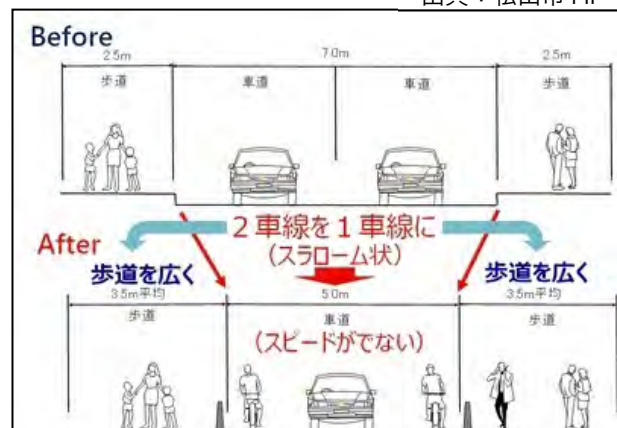
【ロープウェー通りの再整備（平成18年度完成）】

松山城に登るためのロープウェー駅舎が存在する松山城への玄関口でしたが、歩行者通行量の減少や空き店舗の増加が進んでいた。

平成11年に無電柱化を行う路線に位置付けられたことを契機に、道路空間をどうすべきかなど、官民が協働で議論を行い、平成18年4月にリニューアル工事が完成した。

現在ある道路空間をそのままに、車道を1車線無くして歩道空間として再配分したのが大きな特徴である。

出典：松山市 HP



出典：松山市 HP



整備前



整備後

【道後温泉周辺地区の整備（平成 21 年度完成）】

1894 年（明治 27 年）に建設された道後温泉本館の周辺は、歩行者と自動車が錯綜しており、歩行者のための空間が狭かったことが課題だった。

そこで、道後温泉駅周辺や道後温泉本館に流入する自動車を抑制するため、自動車の主動線を変更し、歩行者空間を増大させる整備を進め、平成 21 年度に完成した。

出典：松山市 HP



出典：松山市 HP



整備前



整備後

②松山アーバンデザインセンター（愛媛県松山市）

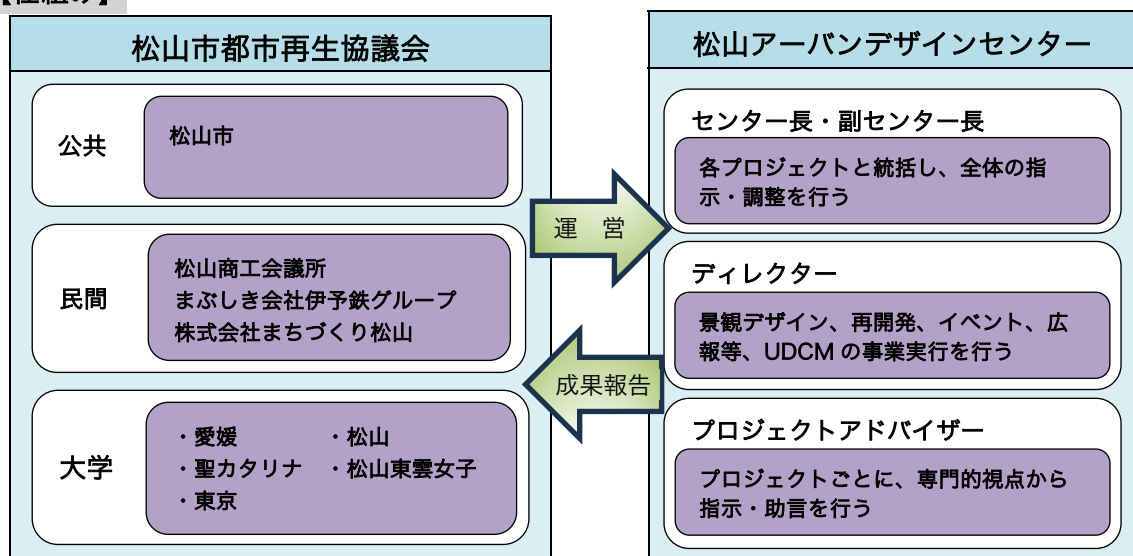
【背景】

松山市都市再生協議会の執行機関として、平成 26（2014）年 2 月に設立された。

学生や市民が、まちづくりについて学ぶことができる「アーバンデザインスクール」の開催や、花園町通りの歩行空間の活用に向けて、市民活動を呼び込むツールの開発「移動する建築」を制作し、子どもたちの遊び場とマルシェの店舗、両方に応用できる屋台が実現した。

また、2018 年には駅前の公共空間の利活用について広場周辺の商店の方々と勉強会を始めるなど主体意識の醸成に取り組んでいる。

【仕組み】



（ア）座学

松山アーバンデザインセンターの仕組みと取組みについて、渡邊ディレクターより説明を受けた。

日 時	令和 5 年 10 月 20 日（金） 9：00～10：10
会 場	もぶるラウンジ

【仕組みについて】

- UDC は、全国 24 拠点あり、最初が柏の葉アーバンデザインセンターで、松山アーバンデザインセンター(UDCM)は、2014 年 4 月の 8 番目に開設された。
- 全国の 24 拠点の運営体制はそれぞれ異なり、UDC は、公と学が強い。「松山市都市再生協議会」が UDCM の意思決定機関であり、UDC を設立するにあたり協議会を立ち上げている。
- 協議会の構成員は、「公」が松山市、「民」が商工会議所、伊予鉄グループ(鉄道・バス運営会社)、まちづくり松山(商店街付近のエリアマネジメント会社)で、「学」が松山の

4 大学と東京大学である。

- UDC は、愛媛大学防災情報研究センターのアーバンデザイン研究部門と、大学とは切り離れた法人格「アーバンデザインネットワーク」を立ち上げ、大学ではできない事業を担う。視察の収益事業や業務委託、収益に関するものはネットワーク部門でやっている。
- UDCM の運営資金は、100%松山市役所(年間 3500 万円)である。協議会に振り込まれた資金は、事業費として活用している。
- UDCM の取組として、4つの役割を担い業務を行っている。「創る」、「交わる」、「学ぶ」を実行し、情報発信により「知る」に結び付け、知った人がこの3つに関わってくれるという循環構造を意識した事業を行っている。

【花園町通りの空間改変】

- 地元の方にエリアマネジメントを担っていただくように仕掛けていった。花園街通りのリニューアルに伴い、西側と東側の商店街の組合で「プロジェクト協議会」を立ち上げ、エリアマネジメントをしている。
- 「プロジェクト協議会」は、植栽の水やりなどの日常管理、公共空間の利活用として、イベント(毎週水・土の産直市、毎月第三、第四日曜日に日曜市を開催)を協議会が担っている。
- イベントを開催するにあたり、UDCM は、市と県警の許可申請手続、困りごとの助言支援、スペースを利用したい一般の人と協議会をつなげる役割を担っている。
- 現在、UDCM が取組んでいる利活用は、事務所の前のスペースにこたつを出して絵本の読み聞かせや、伊予弁で紙芝居の読み聞かせのイベントなど。読み聞かせ以外にも芝生を敷いたりして、雰囲気良くしてゆったり聞かせてもらうという取組がある。歩道幅員が非常に広いので、道路でオセロや水遊びしてゆったりした空間をつくる等、この道路では様々なイベントができる。
- 愛媛県警は協力的で、「どのようにすれば使用許可を出せる」という目線で対応していただいているため非常にイベントがやりやすい。(行政の会議で警察が関わる会議については、警察も参加してもらっている)
- 地元の協議会が開催しているイベントは、砥部焼まつりや専門学校の学生主催で、西側のウッドデッキを利用した毎年 11 月に 1 組限定の結婚式など、通りでは多彩な活動をしている。
- コロナ禍で花園町通りの飲食店の客が減少した時には、「テイクアウトした商品を外で食べられるように店舗前にテーブルと椅子を出してはどうか」と各店舗をまわり説明した。協力いただける店舗にはテーブルと椅子を UDCM が貸し出しを行い、テーブルと椅子の管理は店舗にやってもらうことを現在も続けている。大きいことから始める

出典：松山市 HP



お城下マルシェ花園のようす

のではなく、小さなことからやっていることも特徴である。

(イ) 質疑応答

Q 1：普天間飛行場の周辺で「今からできる取組み」を始めて、跡地が返還されたあとのまちづくりに続けていきたいと考えています。近隣の沖縄国際大学・琉球大学の学生を引込みながら活動できればと考えていますが、何をきっかけに始めたらいいのかわからないため、アドバイスをいただきたいです。

⇒まずはできることから小さく何かをやり、そこに来てくれる人を引き込むことが大事である。

UDCM の例では、企画した展示や絵本の読み聞かせに来てくれた人と話「ここでやりませんか、ここを使いたい人がほかにいませんか」と聞いて紹介してつなげてもらう。「人の輪作戦」をずっと行っている。宜野湾市のみではなく、周りの市町村も含めて、公共空間でやりたい人をいかに見つけ、少しずつ広げていくことがとても大事である。

Q 2：社会実験を行う前には、仮想で模型等の制作も行うのでしょうか。

⇒はい。模型や車の流れをシミュレーションで視覚化することで合意形成が図りやすくなる。

⇒もぶるラウンジのような人が集まる拠点があることも大きいと思う。宜野湾市にはまだそういう拠点がいないため、人をつなぎ合わせる場があればまちづくりのメリットになると感じた。

⇒拠点は必要だが、事務所だけでなくフリースペースで誰でも来られるようなところがあるとよい。

Q 3：生活を変えられることを不安に思うのは、普天間でも同じだと思います。この花園町通りのプロジェクトができて、市外からも人が訪れるようになったのでしょうか。

⇒花園町の通りの認知度は全国的にかなり上がった。そういう意味では日曜市、マルシェをやると遠くの方も集まっている。また、歩行者数は2倍になり地価も上がっている。

Q 4：もぶるラウンジで働いている学生は、大学の単位ではなくアルバイトなのでしょうか。

⇒授業とは切り離して完全なアルバイトで給料を支払っている。愛媛大学には社会共創学部というまちづくりに近い学部がある。いろいろな地域に行き、地域の人と一緒にまちづくりをする学部であり、社会共創学部の学生は授業の延長にもなっている。また、社会共創学部以外には、土木部、工学部、理学部の学生もいる。

(ウ) まちあるき

花園町通り、松山市駅周辺、道後温泉街周辺を渡邊ディレクターに案内いただき説明を受けた。

日 時	令和5年10月20日(金) 10:15~11:30
場 所	花園町通り、松山市駅周辺、道後温泉街周辺

【もぶるラウンジ (まちづくり拠点)】

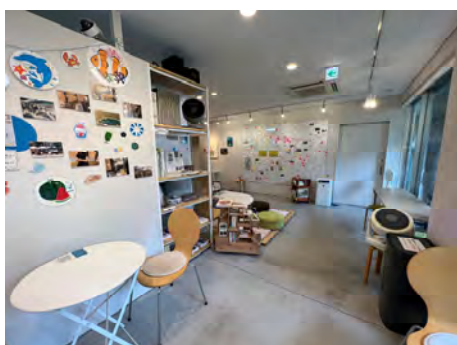


多世代向けの図書も豊富に完備



小さい子ども連れでも楽しめる

図書が豊富に完備されており、多世代の交流施設にもなっている。



学校終わりの学生が良く利用している

読書や勉強ができるスペースを完備。

【花園町通り】



お昼時にはキッチンカーで弁当を購入する人も多い



商店街のオーニングがカラフルなので通りが明るく見える

拡幅されて歩きやすくなった歩道には、買い物など多くの人が訪れる。



自転車道を整備



通りから駐輪場が見えないように工夫

車道側に駐輪場を配置し、ルーバーで目隠しすることで歩道から自転車が見えにくくなっている。



50m 間隔で設置されている電源設備
(イベント等使用可能)

分電盤にコンセントが埋め込まれているため、各ブースで電源を使用することが可能。(分電盤は 50m 間隔にある)

マルシェなど市の後援で開催するイベントの電気料金や、地元商店街の方が行う日常管理の水道代も市が支払っている。



照明柱に刻まれている文字
は正岡子規の直筆



「花」をイメージした街灯

街灯は花をモチーフにした花園町通りオリジナルで、街灯に記載されている「花園町通り」は正岡子規直筆。

松山市は歴史を大事にしており、通りを整備する時も歴史を感じられるような整備を行っている。



俳句ポストの中には、用紙とペンがあり、いつでも俳句を投稿することが可能



子規の庭には俳句で読まれた草花が植えられている

子規の庭として整備した正岡子規の生誕地には、子規の俳句に出てくる草花を植え、俳句ポストを設置している。

【松山市駅前広場】



松山市駅周辺

松山市駅の郊外電車の路線と路面電車の乗継を良くするために、中央にある市駅を高島屋側に移動する整備を行う。移動したことでできるスペースに広場を整備し、花園町通りと一体となった賑わい空間を創出する。

【道後温泉周辺】



坊ちゃんからくり時計前周辺

道後温泉駅前の放生園にある「坊っちゃんカラクリ時計」は観光客にも人気がある観光スポットの一つ。整備前は、「坊ちゃんからくり時計」前の広場は狭くて、観光客が滞留できるスペースもなく車道まで人が溢れて危険があった。整備後は、自動車と歩行者の主動線（溜まり空間）を分離することにより、安全な回遊動線とゆとり・にぎわい空間を確保することができた。



道後温泉本館前



周辺では飲食や買い物が楽しめる

整備前の道後温泉本館前は車道で、観光客が滞留できるスペースも無く、本館と商店街が離れていた。整備後は、道後温泉本館の周辺を歩行者優先の道路に整備しており、観光客や温泉利用客がまちなみを楽しめる空間となっている。



飛鳥乃湯泉（道後温泉別館）

道後温泉別館の飛鳥乃湯泉（^{あすかのゆ}2017年12月開湯）の中庭インスタレーションを、アーティストの蜷川実花氏が手がけた。（展開期間：2021年10月～2024年2月）インスタ映えすると、若者からも人気の観光スポットになっている。
^{あすかのゆ}飛鳥乃湯泉の整備を行う時に、全面の道路も黒アスファルト舗装から石畳に整備している。また、照明も花園町通りと同じデザイナーが手がけている。

③若者クリエイティブコンテナ（YCCU）（山口県宇部市）

【背景】

山口大学の学生を中心とした若者の目線からまちなか再生を考える団体として、また地域の様々な主体との連携の「場」として2017年4月にYCCUが設立された。

活動の拠点である「しばふ広場」の整備・活用の基本的な考え方は、中心市街地に空閑地が広がる中、一角を芝生に置き換えてイベントなどで活用することで、環境改善の効果とその周辺への魅力を向上させ、新たな土地利用や活用需要を高めることを目的としている。

公・民・学連携を是とするアーバンデザインセンターの実現を目標としており、地域のまちづくりを考える拠点施設と、必要な計画や施設の管理・運営を行っている。



出典：YCCU HP

【主な活動内容】

①プラットフォーム機能

- ◆定期的にまちづくりやまちなか再生の専門家を招き、講演会・交流会「UBEサロン」を開催。

②シンクタンク機能

- ◆「学」の立場から新たなまちづくりに係る「研究・提案」を行っている。
(学生主導によるポケットパークの空間デザインなど)
- ◆駐車場問題の解決に向けた時間別の駐車利用の実態調査や、賑わい創出のための社会実験の検討
芝生エリアとパレットによるベンチ（学生提案）による滞留スペースの創出や、イベントに欠かせないロゴやフライヤー、地図のデザインなども学生が制作した。

③プロモーション機能

- ◆しばふ広場を市民に知ってもらうための集客イベントを企画・実施。

目的：若者など今まで地域のイベントに参加しなかった年齢層が、まちなかに足を運ぶきっかけづくり



ピアガーデンを楽しむ地域住民
出典：YCCU HP

(ア) まちあるき

宇部市役所 都市政策部 中心市街地活性化推進課 上田副課長、(株)にぎわい宇部 石井統括マネージャー、山口大学 宋准教授に案内いただき説明を受けた。

日 時	令和5年10月21日(土) 11:05~12:45
場 所	国道190号線常盤通り(ときわいこっと3)、しばふ広場

㊦ 国道190号線 常盤通り (ときわいこっと3 社会実験)

■ 管理事務所



空き店舗を活用した
管理事務所



事務所の運営は、YCCUの学生

通りの空き店舗をイベントの管理事務所として活用。毎日出し入れが必要な道具の収納などに使用している。事務所の運営は、学生主導で行っている。

■ 民間の空き地を活用



民間の空き地を借用した
スペースにキッチンカーを配置



学生が「よしず」をイメージして
設計した休憩スペース

イベント期間中は、民間の空き地を借用してオープンスペースとして活用。

■ 健康エリア



大学生手作りの看板



健康遊具

「大人のアスレチック空間」がコンセプトの広場。多数の健康遊具が設置されている。

■アーバンスポーツエリア



スケートボードは夕方まで利用可能



トランポリンは子どもたちに人気

スケートボードなどのアーバンスポーツや、子どもが楽しめる空間を創出

■歩道に設置された休憩スペース



休憩スペース①



休憩スペース②

歩道内には学生手作りの、飲食可能な休憩スペースを配置。訪れた人々の滞在空間ができる。

■キッズラップ前



子どもが自由な発想で遊ぶことができる



広場から流れる音楽は学生のアイデア

子どもが自由な発想で遊ぶことができるエリア。
通りには訪れる人が楽しめるよう音楽が流れている。

①しばふ広場



イベントや周辺住民の憩いの場となっている



食事や休憩で利用している人も多い

近隣の住民たちが利用する憩いの場。
イベントで活用するなど多機能な利用ができる。



しばふ広場隣のコミュニティガーデ



YCCU の事務所

YCCU は「若者」の目線から「まちなか再生」を考える「場」。学生がコンテナと芝生広場の運営管理を行っている。

4) 合同勉強会

宇部市のウォークブルの取組みについて、宇部市役所都市政策部中心市街地活性化推進課 上田副課長、(株)にぎわい宇部の取組みについて、石井統括マネージャー、若者クリエイティブコンテナの取組みについて山口大学宋准教授より説明を受けた。

また、山口大学学生の取組みについて、山口大学学生の良田氏、原氏より説明を受けた。

日 時	令和 5 年 10 月 21 日 (土) 9:00~11:00
会 場	宇部市役所 防災情報センター



合同勉強会のようす①



合同勉強会のようす②

(ア) 宇部市ウォークブルの取組みについて

- 常盤通りのウォークブル化に当たり「宇部市常盤通りウォークブル推進協議会」を立ち上げた。構成員は、会長 宇部市長、学識経験者、商店街や地元自治会等の関係団体、国交省、警察等の関係機関である。
- 2023 年 11 月から 1 か月間社会実験を実施し、旧井筒屋前の歩道の形態を変えた場合の、車が側道から本線に出る際の安全性の確認、側道部分にくつろげる空間を設けた際の空間の利用状況、常盤通りの横断歩道は 39mあり、高齢者が 1 回の青信号の中で渡るのが厳しいという意見もあるため、歩道を拡幅し横断歩道が短くなった場合の利用状況のチェックを行った。ポスティビルド前はアーバンスポーツができる空間をつくる計画があるので、子ども達がくつろげる空間にスケートボードができる施設を置いて利用状況等をチェックしている。また、キッチンカーをウォークブルの空間に置きたいと考えており、ニーズや事業性などを検討している。

- 主な検証内容として、駐車場と会場を結ぶ新モビリティの満足度、周辺駐車場利用者の満足度、駐車場稼働率の AI カメラや目視計測での調査、歩行者の通行量や滞在空間利用者数の AI カメラでの計測、貸出スペース利用者の満足度や需要調査、自転車と歩行者の通行の安全性確認を挙げている。会場の周辺に 3 か所の乗降場所を設けてぐるぐる回遊する電気自動車を土日祝日に運行させている。3 か所の駐車場に



地区内を回遊する電気自動車

AI カメラを設置して空き状況を

表示している。周辺でイベントが行われる場合、会場に案内の看板を立てたり PR ブースを設けたりして本取組を紹介し、ウォークアブル空間への誘導を図っている。

【社会実験「ときわいこっと3」】位置図

出典：宇部市 HP



(イ) 若者クリエイティブコンテナ (YCCU) の仕組みと取組の紹介

- YCCU は学生主体のまちづくり団体で、地域の交流促進や調査・情報発信などの活動を行っている。コンテナ、芝生広場の管理運営を行っており、常駐スタッフとして、SNS への投稿、ブログの更新など、日々情報を発信し、より多くの人がコンテナや芝生広場を自由に使ってもらえるようにしている。
- イベントを実施することは最初ハードルが高かったが、やっていくことでお互い連携が取れるようになり、毎回参加する人や手伝う人も増えている。イベントを続けていくことで地域のネットワークができ、輪が広がっている感じがする。
- 今年度は毎月イベントを開催しているため、参加者と毎月会える関係性はとても良い。それが「ときわいこっと」やいろんな活動にもつながっているのではないかなと思う。行政も参加しているため、会場でいろんな話もできる。音楽イベントもあるため騒音関係については、地域を回り住民に挨拶してまわると関係性が良くなる感じがある。
- YCCU だけではハードルがあるため、「まちなかイベント実行委員会」をつくり、カフェのオーナー、ウェブデザイナー、イベントの関係、(株)にぎわい宇部、オブザーバーで業者にも入ってもらい、イベントをやりたい人の相談窓口になっている。
- 道路占用許可や警察との協議、保険関係は、(株)にぎわい宇部にお願ひし、イベントをやりたい人たちができないところを我々がバックアップする形で進めており、「ときわいこっと」のイベントにも非常に役立つ組織になっている。SNS でみんながつながり日々連絡を取り合う関係性をつくるのが非常に重要だと思う。
- 2018 年頃、行政がホコ天を実施するタイミングで、学生が出張芝生の提案を持ってきた。芝生があると子どもが遊べ、3 世代が集まってくるため人の滞在時間が増える。

滞在時間が増えることで経済効果に直接つながっていくため出店する側にもメリットがあり、現在の「ときわいこっと」にもつながっている。

(ウ) 山口大学学生の実践について

- Uサロンは主に山口大学の建築学生が宇部市内の設計課題を地域住民に発表して共有する場として毎年1・2回のペースで開催している。提案した学生は地域住民の意見を聞きながら自分たちの案を見つめ直すこともできるし、宇部市の今後について考えるきっかけになっている。YCCUは企画から告知、設営、当日の進行を行っている。
- 宇部市に「にぎわい創出検討部会」が発足し、常盤通りの本格的な整備に向けた体制が出来上がり、学生はその一員として関わるようになった。月に2・3回会議があり、回数を重ねて常盤通り全体の整備計画が出来上がった。
- 「ときわいこっと3」では、社会実験として日常的な利用を想定した空間をつくって1か月間設置した。空間の日常的な市民の使い方を探ることと、空間デザインだけではなくて出店や日常利用者のルール、管理運営の方法について探ることが大きな目的だった。周辺建物との関わりが今までなかったので、関わりをつくって地域になじむボーダレスな空間というのを目指したことで、市民の日常的な利用を整理してコンテンツなどを決定した。
- 民間でしっかり管理しているから安心して市民の方も利用できると思う。イベントがないときでも市民のにぎわいが見えてきたことが今までと大きく違う点である。

(しばふ広場)

活 動	◆周辺の狭い道沿いにも魅力的なお店が多いことから、レンタサイクルを学生が提案して実証に至った。チラシを作成しホテルなどに周知を行った結果、昨年度は地域の住民や旅行者など87名の利用があった。 ◆毎月1回、12月までイベントを開催しており、ミニイベントの進行を行っている。大勢の人が集まって楽しめるイベントを開催することで、地域住民の芝生広場を利用したイベント開催のハードルを下げて、多様な活動への展開をしやすくする狙いがある。 ◆自主ワークショップでは、芝生広場で使えるベンチ作り、イベントや社会実験で使用する看板の製作を行った。これらの活動は地域の方々の地域活動への参加を促すことを目的として行っている。
課 題	◆しばふ広場の日常利用者があまり多くない。 ◆レンタサイクルの周知が不足しているため、ホテルにチラシの配布。 ◆商店街との学生のつながりがまだ薄い。
展 望	◆しばふ広場で野菜マルシェなど日常的なイベントの開催。 ◆レンタサイクルの周辺ホテルとの連携。 ◆「いこっとから人を流せる、いこっとに人が流れてくる」ように周辺とのつながりを確立し、もっと若者を巻き込んでいきたい。

(社会実験「ときわいこっと」)

工 夫	◆アーバンスポーツエリアでは、安全確保について考えて空間を設定し、日常時のルール作りにも時間をかけた。 ◆曲線や植栽を用いて様々な種類の滞留空間をつくり、どのような空間が市民に使われやすいかを考え設計を行った。 ◆スケボーパークの柵をカウンターテーブルにしたことによって、まちなじむスケボーパークになりいろんな人が利用しやすくなった。 ◆アーバンスポーツエリアの沿道のビルは、子どもが多く集まる場所なので、子どもに人気のある大きなトランポリンを設置した。毎日学校終わりに子どもが来てにぎわいが見られるようになった。 ◆空き地にキッチンカーのカフェが毎日オープンし、歩道にも滞留空間を用意して一体的な空間になるようにしている。 ◆健康エリアには、市民が利用しやすい大きな芝生広場を設け、健康遊具を設置。 ◆エリアごとに使い方が一目で分かるような看板を設置して、市民が利用しやすいように工夫している。 ◆沿道の空き店舗に事務所を設置して学生が常駐し、運営を行っている。
反省点	◆イベント時は去年と同様多くの市民でにぎわったが、平日は利用が少なかった。 ◆毎日学生が常盤通りの見回りを行ったが、キッチンカーの出展者との連携がうまくいかなかった。

(エ) 株式会社にぎわい宇部

創業 2016 年 4 月、資本金 2,150 万円、社員 5 名と宇部商工会議所からの出向者 1 名、今年度からふるさと納税業務をやるようになり 1 名増員している。宇部市と宇部商工会議所が発起人となって設立されたが、令和 2 年に増資して 13 社から出資を受けている。まちづくり事業、ひとつづくり事業、情報発信事業を柱にしている。

㊦まちづくり事業

【出店サポート】

- 開業支援サポート事業：開業相談はコロナの影響で少なくなっており、開業店舗も少なくなっているが、令和 3 年から 4 年にかけて持ち直している状況がある。
- エリア内不動産利活用実態調査：中心市街地の主な商店街を回って空き店舗の状況などを調査している。

【サブリース事業】

- 令和 4 年度の取扱いは 6 物件、売上げが 350 万となっている。

【中心市街地駐車場集約】

- 駐車場の管理運営：令和 3 年度、4 年度の売上高は 2400 万円前後となっている。

【共通駐車サービス券事業】

- 駐車場情報集約発信：うべとっぴんで発信。

【ウォークアブルシティに関する事業の推進】

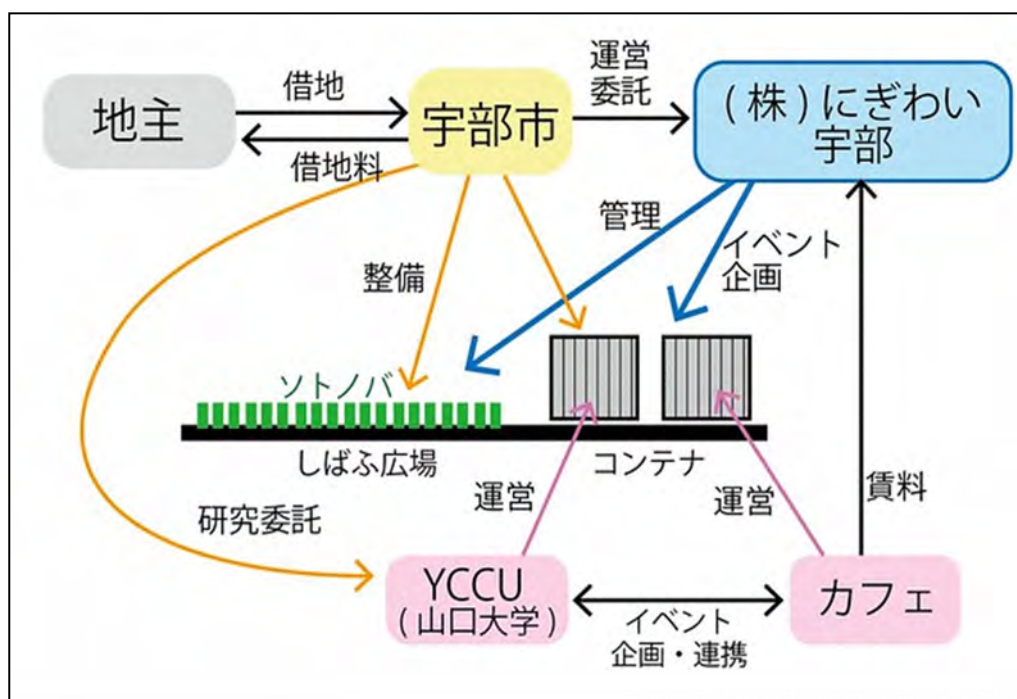
- オープンストリート宇部：現在9店舗がテラス営業許可を受けている。
- キッチンカー営業の推進：人を呼ぶコンテンツとして平和通り、常盤通りの日常の中に置いているが苦戦している。
- 常盤通りでの「ときわいこっと」の開催

①人づくり事業

- 宇部まちづくりシンポジウム：テーマ「ウォークアブルとまちづくり」
- 宇部まちづくりリーダー塾：2023年度は4回開催し、5回目に発表会を予定。

②情報発信事業

- うべとっぴん：宇部の店や駐車場の情報発信。
- うべとっぴんプラス：取材して店の特徴などを記事にして発信。とっぴんプラスをバナー広告など広告の手段として収益を上げようとしているが、なかなか伸びてない状況である。うべとっぴんは国の補助金を導入してつくったサイトなので広告が出せない。



(オ) 質疑応答

Q 1：イベントを開催するにあたり、人を集めるために苦労した点や良かった点がありますか。

⇒パンフレットを作り小中学校に配布するとともに SNS で発信している。イベントを開催中にも広報も行っている。キッチンカーは個別に出店を依頼し、周辺の施設の協力も得ることができた。

Q 2：社会実験のスタートから実施、終了に至るまでの流れはどのように実施していくのでしょうか。

⇒国とのやり取りは制限がかかるものが多い。例えば基礎が必要になるようなものは社会実験では難しい。社会実験と並行して整備を進めていくため、国と基本協定を結び、整備や管理の役割分担を決めている。今年度から整備する箇所についてはさらに具体的な実施協定を結んでいる。

⇒ウォーカブル推進協議会の中に国、県、警察が入っており、議論している内容を理解してもらいながら進めているため、比較的スムーズに進めることができる。

Q 3：ウォーカブル推進協議会は何をきっかけに立ち上げたのでしょうか。市長の公約ですか。

⇒経済産業省のコロナ関係予算を活用する動きがあり、市長面談の時にウォーカブルの話を紹介したことから常盤通り社会実験につながった。常盤通りは国道のため、国を含む関係機関を構成員とする協議会を設置することになった。

Q 4：社会実験を行う上で、特に留意していることはありますか。

⇒道路管理者との調整や隣接店舗や住民への事業説明、また、本整備のエリアコンセプトに則した設えとすることで、歩行者に整備後のイメージを持ってもらうことやそれぞれのエリアのニーズを把握することにも留意している。

Q 5：沖縄県は車社会で歩く習慣がありません。普天間飛行場返還跡地ではウォーカブルなまちづくりを進めていきたいと考えておりますが、「居心地がよく歩きたくなる」まちなか形成を目指していく中で、人々を歩かせるための取組みとして必要なことがあればご教示ください。

⇒市役所など、市民が立ち寄る必要がある場所、あるいは立ち寄りたくなる拠点となる場所がいくつかは必要だと考える。そうした拠点に加えて、そこに立ち寄った人々が様々な活動などに自由につかえる道路空間を創出する必要があると思いますので、社会実験を通じてニーズを把握し、整備内容に反映したいと考えている。

また、こうした空間をまちなかに創出することで、中心市街地の魅力や利便性の向上による居住人口の増加にもつなげられるよう、居住誘導施策なども絡めながら、事業を進める必要があると感じている。

5) 視察参加者の感想

A 氏

1. 松山市役所

① 「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など

花園通りについては、道後温泉まで至るネットワーク約4キロメートルの街づくりが実施され、街の空間形成には無電柱化がもたらす効果は大きいと考えるが、全てについて無電柱化されているのか。

② 「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など

ほぼ全域(4キロメートル)で無電柱化となっているが、中間に位置するロープウェー通りの終点付近の一部が国道と交わり国の許可が下りず無電柱化が施工できてない部分がある。

2. 松山アーバンデザインセンター

① 「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点

ア 景観形成について、歴史が感じられるまちづくり(まちづくりデザインガイドラインによるファザード整備：ウォーニングテント、看板、外壁、街路灯、車止め名等)を学びたい。

イ 松山アーバンデザインセンター(UDCM)の取組みについて学びたい。

ウ 社会実験の手法について学びたい。

② 「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など

ア 石・鉄などの本物の素材を使用した街路整備が実施されており、更には、無電柱化が加わり素晴らしい景観となっている。街路灯の柱、車止め等は本物の鉄で製作されており、檜、提灯などをイメージした街路灯は景観を整えると共に歴史を感じることが出来た。

イ 松山アーバンデザインセンター(UDCM)については、松山市からの年間予算 3500万円の活動費にて公民学連携のまちづくりを行う組織となっていた。なお、設立(2014年4月)当初から予算額は変わらないとのこと。

ウ 花園通りについては、緑の植栽が整備及び管理がされていた。管理については、通りに面する商店街が管理しているとのことでした。柿の木、ポンカン、ススキ等多種多様な樹木及び草花が植えられておりそれぞれにネームプレートが掲げられていた。更には、これらの草花等は正岡子規等の俳人の俳句へと繋がっていた。

花園通りエリアマネジメントの仕組みとして、複数の商店街等を巻き込んだプロジェクト協議会、松山市、愛媛県警、UDCM など組織が合同で協議出来る最終決定機関が機能していることから社会実験等の実証実験の取組みがやりやすくなっているとのことでした。普天間飛行場の跡地のまちづくりにも国・県・市の担当部局を巻き込んだ組織を含めた取組みの必要性を感じた。

3. 宇部市役所

◆国道 190 号(常盤通り)のウォークアブルなまちづくり(社会実験)について

①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など

- ア 国道を利用した再整備したまちづくりであることから、国土交通省・県警等の国道管理機関とのやり取りを確認したい。
- イ グリーンスローモビリティ(時速 20 km未満で公道を走行する電動車(EV)小さな移動サービスにおける地域が抱える交通の課題や低炭素型交通)について学びたい。
- ウ にぎわいとは？

②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など

- ア まちづくり協議会等の組織に国土交通省・県警等の関係組織が常に入っていることから道路使用許可、社会実験等の取組みに理解があり法律の対応にも円滑に対応してくれたとのこと。
- イ グリーンスローモビリティについて、低速であることから国道の走行は渋滞の原因となるため国道を避け(国道を横切るとは除く)ルートを選定する必要があるとのこと。

低速であることから、右折が厳しいとのことで左周り(左折重視)のコースとなっている。上記の課題はあるが解放感のある乗り物で定時運行をしていることから駐車場の込み状況をネットで配信することによりグリーンスローモビリティの人気は高く空き駐車場の利用及び渋滞緩和に役立っている。

- ウ 「にぎわいとは何か？」あまりイメージが湧かないまま同視察会に臨む形になりましたが、現地視察をとおして感じる事が出来たかもしれません。その概念は決して難しいことではないということです。自分が街を歩いて興味を持ち、足を運びたくなることを空間で実現することです。ただ頭で理解しても実現するにはハード面、ソフト面で充実させ実現していくことは簡単ではないということも痛感させられました。老若男女について、関心のあることは異なりますが話し合いを行いできることから実行していくことがにぎわいを創出するということだと視察をとおして思うようになりました。

◆(株)にぎわい宇部の取組みについて

①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など

- ア 中心市街地駐車場集約について、駐車場利用者の利便向上への取組等を学びたい。

②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など

- ア 株式会社として資本金 2150 万円、設立 2016 年 4 月(7 年目)、社員 5 名(内 1 名は役所からの出向職員)で構成されていた。事業として、まちづくり事業・ひとづくり事業・情報発信事業の 3 つの事業に取組み市や YCCU 等が入りにくい空き家問題や交通に関する社会課題等に取り組む人材育成及びまちづくりに関する情報発信などまちづくりを盛り上げる取組みを行い独自で収益を上げている。将来、普天間飛行場跡地のまちづくりにおいても多くの株式会社等のまちづくりを盛り上げていく組織

が必要と感じた。

◆若者クリエイティブコンテナ：YCCU の取組み・山口大学学生の取組みについて

①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など

ア YCCU の仕組み及び取組みについて学ぶ。

イ 参加する大学生の専攻分野及び出身地に関することを知りたい。

②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など

ア YCCU について、2017 年 4 月に発足し 6 年間が経過しており、順調に公民学の連携により運営が上手くできている。

イ 殆どの学生が市外の出身者であり、地元の学生は少ないとのこと。専攻については理学部都市工学科の専攻の人が多いがイベントの時は、理系及び文系は問わない学生がイベントに参加してくれているとのことでした。

学生(小・中・高・大学生含む)のまちづくりへの参加は大切なことだと思う。時代が変わっても次世代の人材の育成にもつながり永年に続くまちづくりとなる。また、学生(若者)のまちづくりは街に若者の力による賑わいをもたらし老若男女が集うまちづくりへと繋がっていくと思う。普天間飛行場の跡地のまちづくりにおいても、学園都市ぎのわんのコンセプトを継続し、学生を巻き込んだまちづくりにしていきたい。

B氏

1. 松山市駅・花園町通り・松山アーバンデザインセンター

開発にあたり地域住民からの反対も多かったにも関わらず役所の担当者が幾度となく足を運び説得し、花園町通りの交通量を減らした実証実験を行い、交通車線を減少させイベントができるほど歩道を広くし、アーケード屋根も取り除きすっきりした街並みになり、アーケードの屋根で隠れていた2階部分の空店舗も解消に繋がったと聞きました。どこでも一緒だと思いますが宜野湾市でも普天間・大謝名地区では空店舗が多く何か参考になればと感じました。

普天間飛行場の返還後に開発される街づくりにはあらかじめ中心地は歩道を広く形成し、市内も含め近隣に2大学あるので松山アーバンセンターと同じく学生の意見を多く取り入れ、数多くのイベントなどを開催し市民はもとより県外からの観光客も歩きたい街づくりをしたい。

2. 宇部市ウォークアブル化ときわいこっと3

常盤通りは国道の道幅も広く、また、平坦な通りなので歩きやすく社会実験を行い老若男女が楽しめるコーナーがあり楽しみながら歩ける街だと思います。発想から実地までスピードがあり3～4年後の完成が楽しみです。又、社会実験中はレクレーション保険に加入していると聞きましたが今後完成した場合のケガなど保険はどうなるのかと思いました。

コンテナ広場はアーケードの途中に途切れた空間に学生の意見を取り入れたしばふ広場やコーヒーショップなどがあり当日は午前中でも人は少なくイベントなどを開催しているのを視察したかったです。

宇部市のアーケード街も沖縄市と同じで過去の遺物なのか今回イベントは開催していましたがアーケード内は空店舗が目立ちこちらでも何か対策が必要かなと感じました。

やはり県外の施設を視察することは良い事で良い点や改善する点など比べる事ができた。

今回の視察先で松山市・宇部市の方々がまずは出来る事から取組むとおっしゃっていましたが、その通りだと感じました。

C氏

1. 松山市役所&松山アーバンデザインセンター

市内の2大文化遺産である松山城、道後温泉を有効活用した既存の市街地をリニューアルする街作り。路面電車や郊外電車が集約される市内で一番の人が集まる市駅前の整備、市駅を起点として市民の健康増進につながるウォークアブルな街作りを知ることができた。

松山市は人口50万、四国最大の都市でありつつ、住みやすい落ち着いた街という印象だが、逆に言うと松山城と道後温泉以外に何も無い地味な街でもある(と思う)。そこに蜷川実花氏デザインの温泉施設を整備して若者、女性を集客したり、ロープウェー街をお洒落な通りに整備したりすること、またそれまで市駅で電車を降りた人たちのほとんどが銀天街側へ行くのを、花園町通りへの集客する取組も車両の減少を踏まえ、シミュレーションも活用し成功させたこと、さまざまな手法で多くの観光客を集客できるようになったと思う。

若手の会のテーマの人を集めることを実践できているように感じた。

2. 宇部市役所

市長の決断、国交省をあらかじめ巻き込んだ組織作り、山口大学との連携などさまざまな要素がうまく噛み合った街づくりの事例だと思った。市庁舎の建て替え事業もうまく利用し、企画から道路整備までが非常に早く進んでいると感じた。

また宋先生の活躍と、そこで連携していく人たちがそれぞれの活躍の場があり、とても勢いや明るいイメージを抱くことができたが、実際の活動はとても大変な活動だろうなという思いも感じた。

一方で、市長が推進していることなので市民の同意を得ていると言われるかもしれないが、宇部市民のみなさまがどの程度、この街づくりのことを知っているか、興味を持っているか、こういった街づくりに賛同されているかなど、市民目線での評価や思いも聞いてみたいと思った。まだまだこれからのプロジェクトなので、国道整備後が楽しみであり、その成果も将来聞いてみたい。

今回の視察は、既存の街を再整備、再開発している事例であったため、NBミーティングの呉屋会長も仰っていたが、普天間基地の跡地というよりは、周辺市街地の街作りにとっても参考になったのではと思った。

D氏

1. 松山市役所

①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など

ア 自動車交通中心の通りから、歩行者や自転車の遅い交通「スローモビリティ」とは何か。

イ 歩道から自転車道を分離し、バリアフリーな歩行空間を創出した現地をみたい。

②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など

ア 地方都市の共通の問題である、人口減少などによる社会形態の変化により中心地のドーナツ化を防ぐための再開発の中で、歩行者や自転車利用など「スローモビリティ」で人を集める事業をしている。

イ 松山市は路面電車とバスなど公共交通の連係が便利なことから、再開発がしやすい地域なのではないか。

ウ 統一感を持ったデザインで景観を良くすることは、まちづくりには重要なことである。

2. 松山アーバンデザインセンター

①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など

ア 建物と道路が一体となったまちづくり

イ 車道を減らしウォーカブルなまちづくりへの再開発

②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など

ア 松山アーバンデザインセンターの設立と、都市再生のためのマネジメントができ、市民、行政、専門家が一体となったことで、まちづくりがしやすくなった点は普天間跡地開発のヒントにもなる。

イ 松山市は松山城、道後温泉など有名な観光地があり、それを路面電車ですムーズに移動できることが参考になった。普天間飛行場跡地も人を集客できるシンボル(大規模公園など)が必要である。

ウ 電線の地中化はまちづくりの重要な施策だと感じた。

3. 宇部市役所

◆国道190号(常盤通り)のウォーカブルなまちづくり(社会実験)について

①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など

宇部市中心市街地の再興の取組みを」学びたい。

②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など

ア 社会実験を通して市民に視覚を通して理解してもらう手法は学びとなった。

イ 中心市街地はまだ自動車中心の形態だと思うので、周辺市街地に分散した人をどのように集めるまちづくりを行うかは全国的な悩みだと思う。

◆(株)にぎわい宇部の取組みについて

①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など

(株)にぎわい宇部の活動について学びたい

②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など

市と商工会議所が発起人となり設立した会社の役割として、住民、事業主、地権者のマネジメント業務で事業を推進する潤滑油の働きをする機関の役割を学んだ。

◆若者クリエイティブコンテナ：YCCU の取組み・山口大学学生の取組みについて

①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など

公民学の連係で、新たな発想でのまちづくりの手法を学びたい。

②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など

学生などが積極的に参加し、新たな発想のもと子どもや高齢者にやさしいウォークアブルなまちづくりに取組む点は、普天間飛行場跡地開発でも幅広い意見の集約や柔軟性を持ったまちづくりができると思う。

社会実験は普天間飛行場跡地でも手法を変えて取組めるのではないかな。

1. 松山市役所

- ①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など
スローモビリティをテーマにしているので、どのような工夫をしているのか。(景観など)
- ②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など
歩道が広がったので居心地よく散歩できそうな感じがした。高齢化ということで健康を意識したまちづくりも興味がありました。
今後、高齢者が増えるので、普天間跡地にも散歩コースを作るなど健康を意識させる工夫は大事と思った。
「どういう風にまちが変わるのか」が気になると思うので、模型等を作成したのは良いと感じた。

2. 松山アーバンデザインセンター

- ①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など
公民学をテーマにしたまちづくりなので、学生との関わり方など若い人をどのように興味を持たせるようにしたのか。
- ②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など
ア 学生は卒業してしまうのでどうなのかと思ったが、まちづくりに興味がありとても良いと思った。人から人への和も大事にしているので、次の担い手も育っていくので良い。やっぱり若い人に興味をもってもらうのは今後のまちづくりには大事だと思う。
イ 今は SNS での情報が入り、子どもがいるところに人が集まるので、子ども中心のイベントは必須と思った。

3. 宇部市役所

◆国道 190 号(常盤通り)のウォークラブルなまちづくり(社会実験)について

- ①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など
居心地よく歩きたくなるまち、子どもが自由に遊べる空間など。
- ②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など
歩道が広く歩きやすかった。
遊具(トランポリン)やスケートボードができるところもあり、コンセプト通り実行しているので、必然的に人が集まりそう。

◆(株)にぎわい宇部の取組みについて

- ①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など
宇部市と商工会の役割について
- ②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など
空き地、空き店舗の管理等地権者への声掛けは大事なことで、地権者も土地の活用方

法がわからない人もいると思うので、宇部市と商工会が中心となってマネジメントを行っていることは良い。

◆若者クリエイティブコンテナ：YCCU の取組み・山口大学学生の取組みについて

①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など

学生が中心となり、まちづくりを考えていくのか。また、学生の役割。

②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など

空き地、空き店舗を活用したイベントや、若い人が参加しなかった地域のイベントを考え、若い人に足を運んでもらうようなまちづくりをしたのは良い。

イベント時には、会場の設営、片付け、SNS の告知など学生を中心にしているので、成功した時の達成感はなかなか味わうことはできないと思うので、近くの学生を取り込むようにした方がいいと思った。

1. 松山市役所

- ①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など
宜野湾市役所周辺と松山市役所周辺との違いについて
- ②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など
整備前の花園町通りと整備後の環境の違いに個人的にはビックリしました。交通量は減少しつつ、人の往来は増加しており片側2車線を1車線に変更して無電柱化にするなど、いろいろな機能を活かした再整備事業ができることを学んだ。
100年先のまちづくりについて考えさせられる思いがした。

2. 宇部市役所

◆国道190号(常盤通り)のウォークアブルなまちづくり(社会実験)について

- ①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など
国道の活かし方、歩道と車道の活かし方
- ②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など
グリーンスローモビリティを宜野湾市内の保育園等の送り迎えに活用できたらと思った。若いお母さんの意見をまちづくりの参考に活かしたい。

◆(株)にぎわい宇部の取組みについて

- ①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など
山口大学学生の取組や活動について
- ②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など
宇部市にぎわい創出検討部会を中心に今ある道路を活かしイベントや空間利用の可能性、健康エリアやせせらぎエリアなど市民の楽しめる参加しやすい管理運営の取組みはとても参考になった。
宜野湾市役所周辺の新たなにぎわいのあるまちづくりや、その他地域でも活かせる案として提案し、基地返還後のまちづくりと周辺市街地のまちづくりの見本としてNBミーティングの参加呼びかけの参考にしていきたい。

◆若者クリエイティブコンテナ：YCCUの取組み・山口大学学生の取組みについて

- ①「視察前」視察先で学びたいこと・見るべき視点など
普天間飛行場周辺市街地のまちづくりの参考としたい。
- ②「視察後」視察先で学んだ点・気づいた点・今後の活動に活かしたい点など
普天間飛行場周辺市街地にある空閑地の新たな土地活用として今の宜野湾市市街地再生モデルとして参考になった。返還後のまちづくりを待たず公・民・学が連携して地域の環境に特化したまちづくりについて、起業・創業等の再生のチャンスがあることを学び、今後の活動に活かしたい。

6) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●産学官民が連携したまちづくりに関する知見の習得と共有について

- ・ 学生がまちづくりの拠点の運営、また、企画したイベント等を学生自ら実践することで、まちづくりの担い手を育成する仕組みを構築している。まちづくりの担い手育成に関する知識を習得し、知見の共有を図る事ができた。
- ・ 歩行者や自転車に配慮したウォークアブルな道路空間や、歩道をイベント等に活用できる広場を備えた道路では、老若男女問わず人々の交流が生まれており、まちに新たな価値を創出している。賑わいと人々との交流が創出されるまちづくりに関する知識を習得し、知見の共有を図る事ができた。

【今後の課題】

●学生との連携のあり方について

- ・ 普天間飛行場返還後のまちづくりについて、将来を担う学生のまちづくり人材育成が必要と考える。本視察で習得した知識をもとに、行政や市民・企業が宜野湾市内外の学生と連携したまちづくりの取組みについて検討を進めていくために、学生がまちづくりに関われる場を今後設けていく必要がある。

(3) イベントの企画・開催

1) 開催概要

普天間飛行場の跡地利用計画に関する内容、将来の跡地のまちづくりを考える取組を紹介し、広く市民に対して跡地利用計画の興味を促すことを目的に、人が集まる祭りと併せてパネル展を開催した。

【開催概要】

○日 時：10月1日（日）15：00～20：00

○若手の会参加人数：12人

○内 容：宜野湾はごろも祭り会場にてブースを設け、「まちづくりパネル展」を開催し、下記取組みの紹介パネルを展示した。

- ①若手の会活動紹介（パネル2枚）
- ②普天間飛行場の跡地利用計画紹介（パネル4枚）
- ③小学生跡地のまちづくりイラスト（パネル約50枚）
- ④各世代のアンケート結果（パネル1枚）
- ⑤西普天間地区に関する情報発信（4枚）
- ⑥アンケートボード（1枚）

【パネル展の様子】





●活動紹介パネル 展示内容一部

もしかすると。。。将来、生活・仕事・レジャー等、私たちはまちの使い手となることも出来るのでは？

将来どんなまちが出来るのか？

普天間飛行場の跡地利用まちづくりパネル展

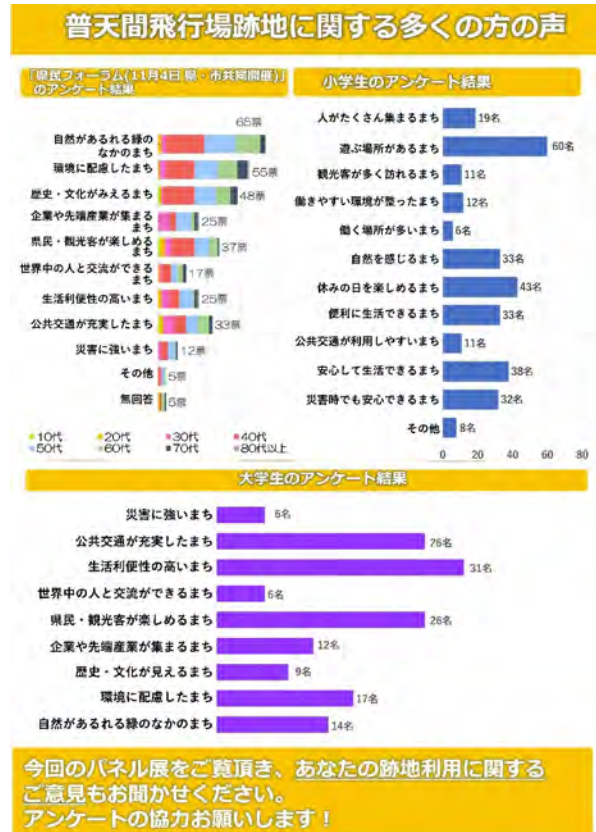
沖縄県と宜野湾市では、返還が合意されている普天間飛行場の跡地利用に向けた検討を進めています。

このたび、検討結果を取りまとめた、普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」を策定しました。その考えを解説したパネルを展示しています。

また、県民・地権者の皆さまへの意向醸成の取組みの紹介として、跡地のまちづくりを考える地権者組織の取組みや将来のまちづくりの担い手である子どもたちが描いた将来のまちのイラスト、今年度の取組みを通じて得られた跡地利用に対する皆さまの声を展示しております。

普天間飛行場跡地利用計画
みんなが考え、動き出している跡地利用計画のようすを動画でご覧いただけるサイトです。

【看板】



【アンケート結果紹介】

●販やかしグッズ



【風船】



【うちわ(表・裏)】

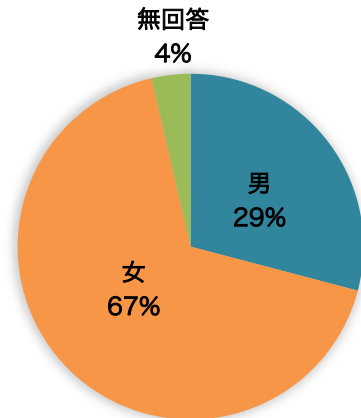


【のぼり】

2) アンケート結果（はごろも祭り）

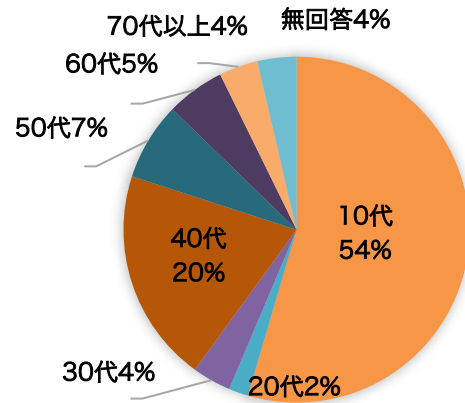
Q1-1.あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	構成比 (%)
男性	16	29
女性	37	67
無回答	2	4
計	55	100



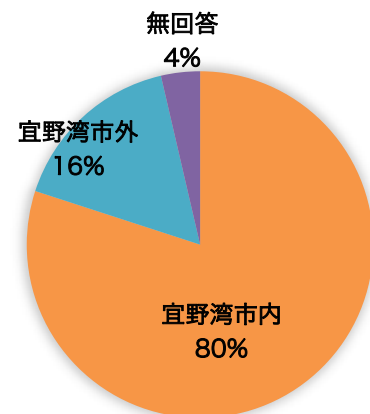
Q1-2.あなたの年齢を教えてください。

選択肢	回答数	構成比 (%)
10代	30	54
20代	1	2
30代	2	4
40代	11	20
50代	4	7
60代	3	5
70代以上	2	4
無回答	2	4
計	55	100



Q1-3.あなたの住まいを教えてください。

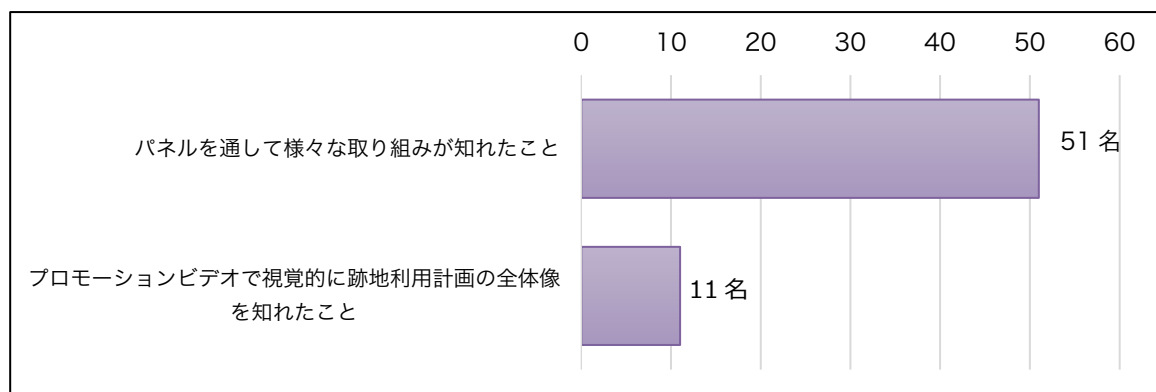
選択肢	回答数	構成比 (%)
宜野湾市内	44	80
宜野湾市外	9	16
無回答	2	4
計	55	100



Q2. 今回のパネル展で普天間飛行場返還後のまちづくりに興味を持てましたか？

選択肢	回答数	構成比 (%)
興味を持てた	55	100
興味を持てない	0	0
計	55	—

Q3. 本ブースでどのような点に興味を持ちましたか？（複数回答可）



Q4. 本年度の取組テーマを「賑わいを創出する空間」として検討を進めていますあなたの考える「賑わいに欠かせないもの」のイメージを教えてください。

- ・年齢の高い方も楽しめる。植物園等、展望台（高さを生かす）
- ・公園
- ・水族館
- ・テーマパーク（ディズニー、USJ）
- ・スポーツ施設（プール、サッカー場）
- ・サーキット
- ・泥がないところ
- ・トヨタタウン（シリコンバレー）
- ・アラモアナショッピングセンターのような超巨大高級モール
- ・ケガしない、汚れない場所
- ・鉄道
- ・博物館

3）取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●多くの人が集まる場での情報発信ができた

これまで開催場所に人を呼び込む必要があったが、今回は祭り会場での開催であったため、人が集まる場で多くの方の目に触れる機会を設けることができた。

【今後の課題】

●情報発信の充実を図る

展示スペースの規模を拡大し、多くの方が落ち着いてパネルを観覧することができるようにする必要があり、今後さらに情報発信の機会を作り、更に多くの方が観覧できる会場を見つける等、情報発信の充実を図る必要がある。

(4) 情報誌「まち未来だより」の作成・発行

1) 取組み概要

市民に対し、普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組み内容等について情報を発信し、普天間飛行場跡地利用への関心を高めることを目的として作成、市報に同封し発行する。

2) 情報発信の内容

回数	発送時期	主な掲載内容
第 15 号	(令和 6 年 4 月発行) 市報へ挟み込み	○報告事項 1. まちづくり講座の概要報告 2. 市内小学校に向けた出前講座の概要報告 3. まちづくりパネル展の開催 4. 先進地視察会の概要報告 5. 市内各種団体との意見交換

3) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●跡地利用のまちづくり意向醸成に向けた取組みに関する情報発信について

- ・市民のまちづくり醸成を目的に実施した「まちづくり講座」「まちづくりパネル展」等に関する内容等を掲載し、市報ぎのわんへの挟み込みを通じて全世帯へ発信することができた。

【今後の課題】

●市民が跡地利用のまちづくりに興味関心を持つための工夫

- ・近年は、意向醸成に向けた取組み内容および「全体計画の中間とりまとめ」の周知を中心に誌面構成を行っている。今後は、跡地のまちづくりに向けた現在のスケジュールを分かりやすく誌面で示していくことで、市民へ跡地利用のまちづくりに向かって着実に進むことを感じていただき、取組みへの興味関心を図ることが必要である。

「まち未来だより」では、普天間飛行場の跡地利用に関する取り組みについてお伝えします。

1. まちづくり講座を開催しました！

まちづくり講座の目的

市民、学生に対して、普天間飛行場跡地利用に関する学習の機会を提供するとともに、跡地利用に対する関心を高め、合意形成活動への積極的参加を促すことを目的として、まちづくり人材育成のためのまちづくり講座を開催しました。

沖縄国際大学との連携

対象者：沖縄国際大学地域行政学科2年生 計30名（15人×2クラス）

- 大学と連携する狙い
 - ・まちづくりに関して知ってもらう
 - ・地域住民等との交流（外部へのインタビュー等の経験取得）
 - ・グループでのプロジェクト企画作成のプロセスを学ぶ

企画提案発表会

令和5年12月7日（木）14時～17時 会場：沖縄コンベンションセンター会議棟B（B5～B7）
参加人数：計62名（受講生30名・一般11名・学生21名）
プログラム：第1部「学生のまちづくり企画提案発表会」4グループ

テーマ	企画内容	具体例	人数
質の高いまちづくり、 今住んでいる人が快適な まちづくり	・地域のつながり ・既存ストックの活用	・子どもたちの秘密基地 等	8名
歩いて回りたいような 賑わいのあるまちづくり	・交通拠点周辺を歩いて回 りたくなるような仕掛け （ソファの取組み）づくり	・グルメリガチャ食べ飲み歩きイベント	7名
にぎわいのある集約型の まちづくり	・既存の広場を利用して季 節ごとのイベントを開催	・タームリンピック ・重野濱ほいね写真コンテスト ・重野湾かるたイベント	8名
安心安全で健康に暮らせる 都市づくり	・地域の防犯性を高めるこ とを目的とした地域住民 参加型のイベント開催	・防災書に関する情報周知のための クイズ大会	7名

第2部「若者が地域に関わるまちづくり」

ゲストスピーカー：宋俊徳氏（山梨大学大学院創成科学研究科 工学系学域 感性デザイン分野 建築学専攻 准教授）
ナビゲーター：堀江佑典氏（昭和電気会社）

【企画提案発表会の様子】



4. 先進地視察会で学んだこと！

普天間飛行場跡地のまちづくりの参考とするため、情報の収集・蓄積を図ることを目的として県外先進事例の視察を行いました。

<視察テーマ>

①人が集う拠点整備とまちづくりの実践
まちなかの賑わい創出するために必要な拠点整備や、地域と学生が連携した低利用地や道路を活用した社会実験や、未来の街に必要な場づくりを実践している地域を視察すること、今からできるまちづくりの実践に関する知識の習得を図る。

②賑わいと交流を育むウォークアブルなまちづくり
周辺地域と一体的にまちづくりの担い手を育て、市民が主体的にまちづくりに関わる地域を視察することで、地域との協働によるまちづくりに関する知識の習得を図る。

<視察先>

- 10/19（木）松山市役所 都市整備部 都市・交通計画課（愛媛県松山市）
- 10/20（金）松山アーバンデザインセンター（UDCM）（愛媛県松山市）
- 10/21（土）若者クリエイティブコンテナ（YCCU）（山口県宇部市）



<合同勉強会>

【テーマ】多世代交流がうまれる魅力ある持続可能なまち
【訪問先】若者クリエイティブコンテナ（YCCU）（山口県宇部市）
【意見】出店料をもらい資金は経費などイベントの質を高めるために使用している。当初、しばしば広場には電源がなかったが、集めた資金で電柱を立てたことでいろいろなイベントがやりやすくなった。

5. 市内各種団体との意見交換会

市内各種団体との様々な周知や意見交換の場等を通じ、若い世代や多様・多様な世代の人材探し・人材育成等を進めながら、市民組織の強化・活動の活性化等を図ることを目的とし、今年度は下記の通り実施しました。

実施日	対象	概要
7月26日（水）	全団体の代表者	各団体との意見交換に 向けて（テーマについて）
9月20日（水）	女性団体連絡協議会	子育てしやすい、 親子で楽しめるまち
10月6日（金）	自治会会長	周辺市街地と関連した まちづくり
3月21日（木）	全団体の代表者	今後の取組みに向けて

<市内各種団体>

商工会、青年連合会、老人クラブ連合会、女性連合会、女性団体連絡協議会、自治会長会、PTA連合会

【「まち未来だより」発行所】

宜野湾市役所 基政策部 まち未来課
〒901-2710
沖縄県宜野湾市野底一丁目1番1号
電話 098-493-4401（直通） FAX 098-892-7022
※注へる場としてお電話にご活用ください。

普天間飛行場跡地

利用計画の詳細は
こちらへ
<URL>
<https://www.pref.okinawa.jp/utenna-min/>



2. 出前講座を開催しました！

市内小中学校において児童に向けた出前講座の開催

普天間飛行場跡地利用について、これまでの取組み内容を紹介し、児童・生徒に返還後のまちづくりについて考えてもらう機会を促すことを目的として開催した。

＜開催概要＞

普天間跡地利用計画のプロモーションビデオを鑑賞後に、跡地利用計画に関するクイズを行った。その後、各グループに分かれて将来のまちのテーマ決めを行い、跡地にできるまちに必要なと思うイラストを白図に貼りまちを作成し、最後にグループ発表を行った。

第1回 令和5年6月29日（木）9時35分～11時20分 開催校：普天間第二小学校（3年）

＜感想＞

普天間基地が返還されたらワクワクするし、まちを作ることにもグループだけの理屈のまちみたいで楽しかったです。またこういう機会があったら嬉しいと思います。



参加者：81名

第2回 令和5年9月15日（金）9時10分～10時55分 開催校：大山小学校（6年）

＜感想＞

普天間飛行場返還後のまちづくりを学んで思ったことは、普天間基地の中央が普天間飛行場だったことですね。普天間飛行場の中には自然に開けるもののがたくさんあると知りました。返還後が楽しみです。



参加者：73名

第3回 令和5年10月17日（火）9時10分～10時55分 開催校：大山小学校（5年）

＜感想＞

プロモーションビデオを見て、普天間飛行場の歴史や文化など、いろいろなものがでていてわかりやすかったです。動画を見るとわかりやすかったです。将来のまちについて考えやすかったです。



参加者：74名

第4回 令和5年11月24日（金）8時35分～12時10分 開催校：志真志小学校（6年）

＜感想＞

普天間飛行場が返還され、鉄軌道が通る新しいまちができると知って驚きました。これから、どんな風にまちが出来ていくのか楽しみです。自分は、楽しくて便利なまちになってほしいと考えました。



参加者：109名

3. パネル展を開催しました！

はごろも祭りパネル展

普天間飛行場の跡地利用計画に関する内容、将来の跡地のまちづくりを考える取組を紹介し、広く市民に対して跡地利用計画の興味を促すことを目的に、人が集まる祭りと併せてパネル展を開催した。

＜開催概要＞

日時：10月1日（日）

15:00～20:00

宜野湾はごろも祭り会場にてブースを設け、「まちづくりパネル展」を開催し、下記取組の紹介パネルを展示した。



＜はごろも祭りアンケート集計＞

アンケート回答者数 55件 宜野湾市内 44名 宜野湾市外 9名 無回答 2名
今回のパネル展で普天間飛行場返還後のまちづくりに興味を持っていたか？
興味を持てた 55名 興味を持てない 0名
本ブースでどのような点に興味を持ちましたか？（複数回答可）
パネルを通して様々な取り組みが知れたこと 51名
プロモーションビデオで視覚的に跡地利用計画の全体像を知れたこと 11名

図書館パネル展

＜展示概要＞ 将来の跡地のまちづくりを考える取組を紹介
まちづくりイラストパネル

（普天間第二小22枚、大山小6年生22枚、大山小5年生17枚、志真志小30枚）
（小学生が考える跡地のまちづくりイラストパネル）

小学生の将来の跡地のまちづくりの考えをイラストを通して紹介すること、親世代や高齢者においても将来のまちを考えるきっかけづくりを行った。

＜展示会場＞ 宜野湾市民図書館

＜開催日＞

● 2/5（月）～2/8（木）大山小5・6年
2/9（金）～2/12（月）普天間第二小・志真志小



大山小5・6年

普天間第二小・志真志小